横浜市老松小学校に奉職し、正いは、大正十年 (一九二一) 三綱が

井上三綱と毛利正子との出

毛利家の「食客」



第 256 号 発行所 小田原史談会 小田原市南町 4-1-24 松島方 TEL (23) 8635

伯父

井上三綱

の

思 しり 出

戸 田

子の母が気付いて、正子が「学校 も恥ずかしい思いをしたと正子 て下さーい」と言う三綱に、とて 招き入れる。「五銭方風呂ば入れ 同僚だ」と言うと、母は三綱を

災で家は崩壊、野毛山公園近く といい、正子の祖父が漢方医で、 子は父の姉で、 毛利家は私の父・正雄が長男、正 の東ケ丘へ移る。この家も先の 大戦の横浜大空襲で焼失した。 診療所を持っていた。関東大震 毛利家ははじめ「野毛の漢方 私もこの家で生

酒匂のアトリエ

子は結婚し酒匂に住んだ。昭和三年(一九二八)三畑 昭和二十二、二十三年頃であ 和三年 (一九二八) 三綱と正

綱は毛利家の「食客」となった。 は述懐していた。その時から三 業をした。

ピーという葉笛が聞こえる。 家があった。夕刻になるとピー 下った東ヶ丘に正子の家、 当時の老松小学校から七、 子と同僚となったからである。

正

毛利 八分

とを「買い手に強調しているの だ」と正子は語っていた。市庁舎 に描かれ、「優れた馬」であるこ いた。馬売りの右手は濃く茶色 私は目頭が熱くなる。 人の候補に決まり、残念がって にノミネートされたが、もう一 ロビーでこの絵を観るたび、 母・正子からの課題は、 毎

といつも同じ歌を歌わされた。 ことも無く、訪れた客人を交え 常であった。私たち姉妹だけだ てジェスチャー遊びをするのが 匂へ長く居るときには製作する 京と藤沢辺りを転々として、 酒匂にある井上の家に代わりば であったと思う。私たち姉妹は、 ろうか、私が八歳、姉が十歳の頃 んこに預けられた。 その頃三綱伯父は、 酒匂と東

厳ある姿ででんとしてあり、薄額されている「馬売り」の絵が威現在小田原市役所のロビーに掲 われ、二時間くらいがあっといべんもなんべんももう一度とい う間に過ぎた。 く、もの悲しい旋律の歌で、なん に背負っているような気分で作 暗い中で私はいつもその絵を背 酒匂のアトリエの東の壁には

この作品は帝展に出品、「特選

二百五十六号(平成三十一年一月号) 目 次

伯父・井上三綱の思い出 戸田 節子・・・ : 1

旅のつれづれ俳句日記 剣持 芳枝……3

画家・井上三綱の芸術 田 代 勉 4

中 観測装置は手作り 山本 房吉・・・・・・ 四中初代校長の思い出 · 現 • 城南中)誕生の頃 松岡 輝宏…… 13 10

短調で殊に「勇士らは~」は力強

〜みたり勇士らは〜」どちらも

四

「荒城の月」「勇士らは〜戦いに

俺は四中でラッパ吹いたよ 風間 亨 : 14

三綱さんと四中―年頭の挨拶にかえて 松島 俊樹・・・・・ 15

伝 童子絵巻―京文化と小田原 深野 彰 : 16

酒

|宮尊徳と『論語』(七)

岩越 豊雄 22

短歌・どんと焼き

田口 誠一…… 24

総会予告 片岡日記・昭和編(十五) 片岡 永左衛門 9 25

特別賛助会員·落穂集 新入会員募集 28 9

八、九歳の頃の何とも懐かしいなどと言葉を選ぶ訓練である。 雨戸を開けると、「朝まだき・・・・ 朝和歌を一首詠むこと」である。 である。 頃の

| 綱の母「おワリばばしゃん」

品を描いている。ものの。など母をモデルにした作 だった。三綱は「母の像」「あみ タワシを作り、 シュロの木の皮を上手に丸めて と足どり軽く廻りながら踊りは シェのシェ (セのセのことらしい)」 るくる廻しながら「シェのシェ、 キを毛槍代わりに両手で挟みく しかしとても元気な人で、ハタ 仲良く暮らしていた。髪は白く んでいた) が、正子とは馬が合い、 (私たちは「おワリばばしゃん」と呼 ゃいで見せた。庭先にあった 綱の母・「おワリさん 台所仕事もマメ

とっても可愛がってもらい、「せ私は、「おワリばばしゃん」に と正子の引き留めにもかかわら んでいった。「だんご汁ばい!」、つ子しゃーん」と声がすると飛 これはとても美味しかった。 「三綱がおらんのに申し訳なか その後も数年酒匂に住んだが、 間もなく他

エ

二綱が酒匂になる田のアトリエ 住 しむ間 隔 は 次 第

り返した後、入生田にアトリエに広がり、転々とする生活を繰

は足繁く通い始めに「円を二百無い。三綱へ行きなさい」と。彼 回描け」と言われ、その後で数々 ら「わたしの教えることはもう であった赤岩賢三氏は、正子か いたようであるが、正子の弟子弟子と称する人たちもかなり ようになったという。 経つうちに見事な円形が描ける の指導を受けたようだ。一年も

がすと、何と馬に乗ったドンキ を静かに置きゆっくり上手に剥 箸のような棒で墨の上にかなり 時にはガラスに墨を流し、 持てば見えないところも見える。 である。全てのものに優しさを ホーテが現れたり・・・・。 の速度で線を描く。その後画紙 なくてはいけない。「優しさを七 芯を描く、次に向こう側が描け 目で見えるところを描く、中の 十倍せよ」とは特訓の中の言葉 私にも三綱は「りんご」を描く、 割り

もよく通われたようだ。 なられた。他には柏木房太郎 三綱は印象派の画家ではセザ 傑作を遺された。今は故人と 赤岩氏は国画会で活躍、沢 氏 山

ではピカソを意識していた。「物 ンヌを好んでいた。また、近現代 向こう側が見える」ことへの、 ·坂本繁二郎

無かったものの、ヘンリー・ムー ッサン(エスキース)をたくさん見 たことがある。 (彫刻) とそっくりな三綱のデ を意図する中で、

う」などと言うと、また続いて演ともっと面白い作品になると思 奏をはじめるのであった。 今のはどーお?」と聞くので。 的にピアノを弾いた。「節ちゃん 「もう少し異なった和音を使う 一綱は制 作 の合間によく即

て、譜を描いて私は伯父に説明った。日本の雅楽の音階についをつけて、師・坂本忌には必ず舞をつけて、師・坂本忌には必ず舞三綱は雅楽を愛し、面と装束 したことがある。

ん坊を寝かしつける音程、その低い声で子守歌を唱いながら赤ついて三綱流解釈では、「母親が この中のラから始まる黄鐘 マである。即ち男女の間柄、よく 上に壱越調、男の一番低い声を の一つ一つに名が付いている) 黄鐘(おうじき)、#ラ、シ= 金 (たんぎん)、ミ、ファ、ソ、ラ= (ばんしき)、ド、#ド等と、音階 (レ=壱越(いちこつ)、#レ ねたのが作品 和する基本的なこと」となる。 「黄鐘調」のテー 調に 盤涉 1 断

接点は 承諾する。 雑だったが「絵は見る」の条件 たが、三綱の六十代後半に養 の話が興る。正子の心境は複 年を 重 昭 和三十九年頃だ

となり、 思い出す。 も良いと言われたとき、入生田 度も通った。 に写る伯母の悲喜交々の表情を 0) メだと言われたとき、一、二点で 坂を下りながらバックミラー 私は伯見 品作品を持って行き、

美味しかった、ありがとう」 まって後から電話がくる。「節ち ゃん、心の行き届いた作品だね、 ッチ、ケーキなどを持参する。決 寿司や煮物、玉子焼き、サンドイ まって手作りのお弁当、 入生田に行くときは、 ちらし 私はき

まれ、 見つかって私たちは解放されたた。しばらくして幸い良い人が とを実感した。 が、「人はいつか死を迎える」こ が決まる間、留守番に来て」と頼 三綱も徐々に歳をとり、 めを持つ養女から「介護の人 姉と交互に入生田に通っ 毎 H

故郷を愛し、自由自在、心の向く享年八十二歳。櫨(はぜ)を愛し、 ままに生きた人生だったと思う。 るように三綱は天界へ去っ昭和五十六年五月十九日 、儀は小八幡の三宝寺で三綱に 日 た。 眠

年の

2019年 (平成31年) 1月

った。幼い頃の思 私で川の字になり伯父に付き添 厳にとり行われた。 心寄せていた住職の計らいで荘 く語りながら。 い出を懐 通夜は姉と か

綱の墓所、

に覆われている。 かなり大きな神社で、 とても古いが舞台の付 ら神官が出かけてくる。 現在は祭事の時だけ他の地域か 継ぐが子供が無くこれを返上、 志し、三男・垂穂は神官職を一時 が無く早逝、次男・三綱は画家を であったが)。長男・一郎は子供 高良神社 (こうらじんしゃ) から村 の士族で、宝満宮竈神社 んぐうかまどじんしゃ)、 へ嫁いできた(いわゆる降格 網の生家は神官職十五代目 母ワリは 楠の大木 いている お宮は (ほうま

されているかもしれない。在は市の井匠屋 画がぐるりと描かれている。 族の骨壺が並び、三綱による壁 の形で、お宮の隣にあり、中に一墓地はこんもりと小型の墳墓 正子はこの墓地に入ることを は市の共同墓地政策で取り 壊 現

地に眠っている。 を含む大作から小品まで、 国立、その他、 福岡市美術館、 一綱の作品については、 北九州、 自ら希望して戸田家の墓 福岡 鎌倉、平塚、 東京では竹橋 . (福岡県立美術 多く 屏 風

> 他に収蔵されている。 術館に、個人蔵では山 蔵では山種美術館福岡MOA等各美

3225) という三綱の油彩画では うぼうひぞうほうやく)、道元の禅 によく三綱論を書いて下さった NHK出版協会の画集に載せて デルにした海の漁の絵である。 さった(株)東美デザインの古城 尽力した養女の貢献も大きい。 捧げたい。また後半画集出版に 著名な方々には心からの感謝を いただいた。そして、夫々の画集 最大の作品が壁一杯を占めてい と三綱は私に言ったことがある。 などの助言と哲学的支えは大き 古事記、万葉集、弘法秘蔵宝鑰(こ なく敬愛し、めんどうを見て下 ある。初期の出版は三綱をこよ かった。「正子はまぶしかぁ~」 い愛と国漢に秀でていた正子の 一明氏による。生涯を通じて深 私の磐城の家に「曙」(1785× 私の手元に数冊の三 酒匂時代に近隣の人々をモ 綱 画

樹下で雅楽を舞っているにちが

一綱は今も故郷の櫨

(はぜ)の



カット 内田美枝子

旅 **(1)** つ づ れ 俳 句 日

た。湯煙がたちこめ周囲はベンチや遊歩道がある公園になっていた。日本 まった。真白な雪が日に映えてまばゆいようだった。浅間山の噴火で出来 ぎのや」で馳走になった。店で少し買物し浅間山を真近に見て感激してし ら乗る人もあり朝霧高原で休憩、甲府須玉を経て昼食は佐久の峠の茶屋「お 二人とも冬の草津温泉がいいと決まり、早速旅行社に申し込みに行った。 た。もう暗くなった頃ホテルに着いた。 三名泉のひとつ草津温泉に来たという思いが増々身近に感じるようだっ 光景だった。四時半には草津に着き湯畑のまわりをぐるっとひとめぐりし た「鬼押出し園」は前にも来たことはあるが、今日は一面の銀世界で見事な 句仲間のM子さんと旅の話になると、何所がいい此所がいいと相談の結果、 当日小田原駅を六時二十分にバスは出発した。途中三島、 一一四年のお正月も無事にすみ季節はもう如月になってしまった。 沼津、富士駅か

湯もみを見物、体験することも出来るのだが私達は見るだけで十分だった。 の大風呂に入れて本当に幸せだな、と心から思った。午前中は草津伝統 翌朝もいいお天気で気分よく五時には起きてしまった。 草津よいとこ一度はおいで 朝から草津温泉

お湯の中にも花が咲くよ

サン美術館は今でも開館していてほっとする気分だった。野沢菜工場にも は前山寺へ、句会の吟行で来たこともあるのでとても懐かしかった。デッ を宅急便で送ってもらった。お昼は上田の食堂できのこ料理だった。午後 がら戦時中の恐ろしい過去が思い出されて戦争のない平和な日本がずっと っていて温泉情緒がたっぷり味わえた。松代では象山地下壕見学、今更な 寄り野沢菜の美味しそうな香りをいっぱい吸って最後の見学を終えた。 続くように祈りたい気持ちでいっぱいだった。宮坂酒造にてワインと地 原公園を結ぶ通りはいろいろな店が並び、温泉まんじゅうを蒸かす煙が漂 いと思っていた草津方面に来てこれも温泉のおかげか、こんなに温かい思 が出来てああよかったな、と誰にともなく感謝している。 姿に見送られ、 聞きなれた歌声が何時までも耳に残っていた。そのあと湯畑から西の 有意義な楽しい旅ができて本当によかったと思っている。 富士山の美し 酒

沈丁や路地を曲がりて匂いたる

山 並みのゆったり暮るる名残雪

画家・井上三綱の芸術

כש

井上三綱という画家が、小田原市の図書館や市役所(馬大生田の山中のアトリエで一九天生田の山中のアトリエで一九五二年以降、自らの芸術を終生追五二年以降、自らの芸術を終生追五二年以降、自らの芸術を終生追五二年以降、自らの芸術を終生追去にいる。

プロフィールを見るだけでも「世作品の一部を見ることもできた。術館で行われた所蔵品展でその売図」 一九三六年)で、また平塚市美元図」 一九月のできょう



小田原市・長興山のアトリエにて(文献(10)より引用)

↑田原中・長典山のアトリエに (X駅(IU)より51用)

貫いてゆるぎがない。生活スタイルは自身の生き方をその成功にも関わらず山中でのされている。穿った見方をすれば界的」と言うに相応しい業績を残

私はこれまで「三綱の芸術」に 私はこれまで「三綱の芸術」に 本年二〇一八年一 力にギャラリーNEW新九郎で 井上正子の作品も展示され、改め 井上正子の作品も展示され、改め 井上正子の作品も展示され、改め 井上正子の作品も展示され、改め 大ち展」で井上三綱とパートナー たって先入観をもたないで観る たって先入観をもたないで観る こと、虚心に学ぶことも必要と自 こと、虚心に学ぶことも必要と自 こと、虚心に学ぶことも必要と自 こと、虚心に学ぶことも必要と自

勉

田代

人間、井上三綱の〝画家としての士族の次男として生まれる。竈(かまど)神社の神官職一五代目一八九九年 福岡県八女郡の感性を育んだ神話的風土

人間、井上三綱の / 画家として人間、井上三綱の / 画家としての資質。は九州筑後八女でそのの資質。は九州筑後八女でそのの資質。は九州筑後八女でそのの資質。は九州筑後八女でそのの資質。は九州筑後八女でそのの資質。は九州筑後八女でそのの資質。は九州筑後八女でそのが生家からほど近いところにあが生家からほど近いところにあが生家からほど近いところにあいる。

になるかと思える。

せたに違いない。壁画は古代への空想力を溢れさらうし、神話的風景や古墳の装飾して脳裏に焼き付けられたであして脳裏に焼き付けられたであ

鑑賞する為の一つのキーワードと「抽象によって自己表現を完結り、その思索癖は絵画表現になるり、その思索癖は絵画表現になるの思索を促して」青春の日々を送の思索を促して」青春の日々を送のに、「生来の詩人的資質が哲学へに、「生来の詩人的資質が哲学へ

について考えてみたい。上三綱とその芸術の内的な経緯えたといわれる。年譜に沿って井文》があり、三綱に深い影響を与の『わだつみのいろこの宮』《重の『わだつみのいろこの宮』《重事記神話をテーマにした代表作事記神が

術院同人になっている。|

小工学えてみたい

小工年小倉師範学校に入学。これ一五年小倉師範学校に入学。これ一五年小倉師範学校に入学。これ一五年小倉師範学校に入学。これ一五年小倉師の書常高等小学校の訓測県横浜の尋常高等小学校の訓測となる一方、翌年には村芝居の劇に感激少年時には村芝居の劇に感激少年時には村芝居の劇に感激が院同人になっている。|

反応する機会は多かったはずで 三綱の若い感受性ゆえに激しく 覧会に入選入賞をはたしていく。 つつ作品を制作し、次々と各種展 世界と微妙に響きあうの 画家としての歩みを模索し を

東洋・西洋の接点の技法を模索

る絵画世界を追求した。 生き方でもある独自の技法によ 派であり、三綱はただ己の信ずる 行われている。当時とすれば小数 けする意味がないほどに普通に は混ざり合い、強いてジャンル分 と影と空気の遠近による表現等 化する表現技法にあって、日本画 まで往復書簡など親密な交流が の伝統としての「線」、西洋画の光 による表現である。今日では多様 な「線」と西洋的な「マチエール」 てみられる特徴がある。日本画的 には、独自の画風が注目された。 展に出品し初入選を果たした「牛 みられたが、第七回の帝国美術院 続けられた。当初は坂本の影響が そこには以後、晩年まで一貫し 繁二郎を終生師と仰ぎ、その死 九二六年には同郷の画家、 坂

共に作品を畳の上に並べて話し 前置きして、 今泉篤男氏は「三〇年近く前」と 上三綱作品集に寄せて」のなかで、 「綱画集・時間について」所収「井 素描画を携え訪れた三綱氏と 九七八年に発刊された「井上 ある日、おびただし

> の探求心を窺わせるエピソード と述べ、三綱の制作意欲と作画へ と近代の接点であると同時に東 を紹介している。そうしたことが 洋と西洋の接点ようにも見えた。 尖筆画」の様であり、「それは古代 代の人類が洞窟の壁面に描いた 合った。その素描画は 度ならずあったようだ。 旧 石器時

り何を捨てるかを追い求めた。絵べきかの問題意識を持ち、何を取 画の思潮はあるにせよ、団体展 何をテーマにどう表現するか、そ 西を問わず多くを学び試行した。 らず、今泉氏に尖筆画と言わしめ 心事ではなかったと思わせる。 画風がどうであるかは大きな関 すでに三綱自身にとって、洋の東 あるといって憚らないにも関わ たほどに日本画の伝統としての 「線」を多用している。そこには 為に帰結する技法はどうある のちに三綱自身、本業は洋画で 0

「萬葉画集」と「萬葉かるた」

によれば、彼女の古典への深い知時の様子を知る関係者のことば 足柄下郡酒匂で生活を始めた。当 大いに刺激を与えたのではとい 識は古事記・万葉集など、三綱に 一九二八年、毛利正子と結婚し

も小さい頃から万葉集に親しん のひとつと思われるが、三綱自身 筑後という神話的風土の影響

乃の

御 名章 部沿 皇於

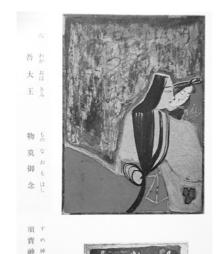
綱が一○○首をかるた大の色紙 ている。これがきっかけとなり、 館で『萬葉展』を開いた。」と述べ 高等学校の同窓会館である窓梅 さびに」描いた絵かるたを一九三 探求の道すがら(中略)楽しい時を 年出版) の序文のなかで 「洋画 三〇〇首選んだ中から、原画は三 れには井上通泰氏が万葉集から 泰氏につながり、一九四四年には のちに時の御歌所の選者、井上通 九年には原稿として完成させ、 持ちたいために万葉の絵を手す に二か月で仕上げた。 「一九四二年四月、小田原の女子 「萬葉画集」として発刊した。こ 「古事記・萬葉画集」(一九七六

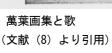
ろがけ、注意していたのは「古今 農耕など自然発生的な生活、 だった。万葉集のもつ、天皇から 調」に傾かないようにということ 宮廷歌人、詠み人知らず、庶民の 三綱がこの作品制作中にここ

> のうたまで、いまだ建国神話的な 「詩韻」を重視した。 「萬葉の雰囲気」やその

るわけではないが避けたかった 教養主義的な語調は、否定してい 社会で重視された漢籍古典など 等の気韻を表わしたかった」と述 のだろう。 歌集の洗練された技巧、 べている。いわば古今、 ならぬよう萬葉と同格の視覚的 ろではない。「萬葉の説明、挿絵に 表現」を目指し、「見えるものと同 短音階の哀調表現は望むとこ 新古今和 宮廷貴族

豊かに表わすことばのセンスの 皇がその手に摘んだ山菜の土のの糧にしてしまう「音律」や、天 を過ごした筑後の古墳群や装飾 みとろうとするとき、常に幼少期 族の原型質を万葉集の心から汲 良さ、三綱がそうした初源的な民 薫り。それらのこころを比喩表現 来事さえ謡いあげ、新たな生活 万葉のもつ「長音階」は悲し





ないかと思う。壁画のある風景があったのでは

葉集として編纂した。 ・ いまだ不安定な大和政権は、各地に散在する神話、伝説的な「英地に散在する神話、伝説的な「英地に散在する神話、伝説的な「英雄譚」「唄」「謡い・詠い」を収集雄譚」「唄」「謡い・詠い」を収集がまだ不安定な大和政権は、各地はだ不安定な大和政権は、各地は大田政権は、各地に対して、

対内、対外的に国としての独立対内、対外的に国としての独立ころを三綱は捉えようとしたる一面、そこに込められた人々の歌など、和歌として発達しつつあいなど、和歌として発達しつつある一面、そこに込められた人々のこころを三綱は捉えようとしての独立が内、対外的に国としての独立のではないか。

和歌の韻律が響き伝わってくる。画集で絵かるたの絵札を見るであろう。その仮名文字を工夫しの概念をくつがえしてしまっての概念をくつがえしてしまっての概念をくつがえしてしまっての概念をくつがえしてしまってのあろう。その仮名文字を工夫しであろう。その仮名文字を工夫しであろう。その仮名文字を工夫しがる人は少ないのではとも思えめる人は少ないのではとも思えるが、絵札と歌札の書とを一対とるが、絵札と歌札の書とを一対とも、三綱の意図とする絵札を見るが、絵札と歌札の書とを一対として見れば、読むことができなくとも、三綱の意図とする絵札を見る

そこに「見えるものと同等の気韻」 をはそこはかとなく見えてくるの ではないか。海外でいち早く評価 されたのも同じ理由からだ。何度 も見続けていると、古代の人々の も見続けていると、古代の人々の を見続けていると、古代の人々の はそこはかとなく見えてくるの

三年にケネス・安田氏の訳により「アメリカの文化団体である『アメリカンクラブ』が(中略)萬葉画メリカンクラブ』が(中略)萬葉画メリカンクラブ』が(中略)萬葉画メリカンクラブ』が(中略)萬葉画なている。終戦前後の時期にあったとはいえ、その後の国内においたとはいえ、その後の国内においてはこうした海外での高い評価とは対極にあったようだ。

気を博したとはいえ、浮世絵をよー浮世絵は江戸町民によって人

り芸術として観、捉えたのは、宮り芸術として観、捉えたのは、宮のおしい展開に深くいかに影響を与えたかはよく知いかに影響を与えたかはよく知いがに影響を与えたかは、宮の後のいかに影響を与えたのは、宮の芸術として観、捉えたのは、宮

「古事記屏風」の構想

このころから古事記といえば筑 構想を決定づける体験を述べて いう。三綱は更に同序文のなかで しき題材をデッサンしていたと あとが窺える。当時の三綱を知る を練り始めたとみられ、苦悩した 思いを巡らし、古事記屛風の構想 後の風土、青木繁の古代幻想にと 萬葉画集原稿を作成したとあり、 事記に親しみ、絵画として作品化 関係者によれば多数の古事記ら いる。年譜によれば一九三九年に しようとした由来が述べられて した「萬葉画集」の五年前から古 序文において、一九四四年に発刊 |綱はまた「古事記・萬葉画集_

であった。三綱にとっては「古事高原を旅したときに訪れた発哺高原を旅したときに訪れた発哺高原を旅したときに訪れた発哺の祈りの姿、三綱にとってその時の祈りの姿、三綱にとってその時のがの姿、三綱にとってと神々な風景、人々の命を守る仏と神々な風景、人々の命を守る仏と神々な風景、人々の命を守る仏と神々な風景、人々の命を守る仏と神々な風景、人々の命を守る仏と神々な風景、人々の命を守る仏と神々な風景、人々の命を守る仏と群馬県(ママ) 志賀

専念すればよかった。していた技法を駆使して制作にとは「萬葉かるた」当時から工夫とは「萬葉かるた」当時から工夫はないか。構想が明確になればあのイメージそのものだったので記屛風」の構想から作品の完成形

絵肌・「綻びのマチエール

を様々に本格化していく。事記のこころをいかに表現する程で、大小の下絵のデッサンに古程で、大小の下絵のデッサンに古程で、大小の下絵のデッサンに古

古代洞窟、古墳装飾壁画に見られる数千年を経て、尖筆、色の風れる数千年を経て、尖筆、色の風れる数千年を経て、尖筆、色の風では、一点で、三綱は「萬葉画集かるた」の「見えるものと同等の気韻」を古事記においても表わしたかったに違いない。

マチエール作りに迷いがない。下で手工ール作りに迷いがない。下では、両側による風化を「情緒豊かに巧時間による風化を「情緒豊かに巧時間による風化を「情緒豊かに巧時間による風化を「情緒豊かに近めに演出するための、美しい綻みに演出するための、美しい綻かに演出するための、美しいにびいる。大か、画集の作業をどのように進めたか、画集の作業をどのように進めたか、画集の作業をどのように進めたか、画集の作業をどのように進め、一方事記・萬葉画集」に寄せた

画の技法による場合、下塗りし いているかも知れない。フレス 頼るしかない。部分的に箔押しを よっては、その度合いは経験知に にするか、岩絵の具などの粒状に するために膠の濃度をどの程度

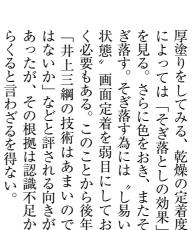
或いは使い慣れた油彩を

して膠(にかわ)を用いて画面に定 わせる。これらを日本画では主と

着させる。このとき堅牢な画面に

(文献(8)より引用) た後に半渇きで彩色する。 色をおく、ぼかす、たらしこむ

2019年 (平成31年) 1月



東洋の点」と「時間」の概念

古事記屏風の一部

られている。そもそも空想的な古た、人、その、こころ、に向け その眼差しは古事記の時を生き が必要であった。 三綱にとってはどうしても油彩 事記の心象を醸し出すには写実 らば描き出そうとした関心事は、 いかに「気韻」表わすかであり、 率直な感想を述べさせて頂くな の眼は強い意志を宿し、衣裳にも する人々の表情を連想させる。そ たかと思う。 か或は同時進行か、デッサンして にこだわらない「綻のマチエール 慎重であったと思うからである。 していく。恐らく念紙で映しとっ あった人物画を画面上に描き興 人物の表現は「萬葉画集」に登場 「そぎ落としの効果」がみられる。 こうしたマチエール作りの なリアリズムでは無理がある。 その配置には構図上 後

微粉末を用い、場面によっては顔

水干のような泥絵具と混ぜ合

作りに胡粉や砥の粉

のような

が数千年の時を経てなお退化、退の壁に描かれ、刻まれたレリーフ り込もうとしたことについて三 を、よりはっきりとした表現にし 色或いは剥落の途上にあること 綱は当初その意識は薄かった。 たかったのではないか。こうした 「時間」の概念を絵画において取 の装飾壁画や、

発言・一九七四年アサヒ・ギャラリー春 は時間を持った点」(吉村貞司氏の の点は動く」ことを確信し、「それ 価を受けた。三綱はこの時、「東洋 とです」と物理学者ならではの評 ている」その「時間とは速度のこ た折、「あなたの絵には時間が出 理学者ロバート・オッペンハイマ 井上さんがやっている」と絵画の 季号対談)であり、「その゛点〟を ーが入生田のアトリエを訪問し 「時間」についてのやりとりがあ 一九六〇年、アメリカの原子物

として東洋において根付 概念が、仏教の生老病死の考え方 いう他の物質への変化、ないし転 ネルギーを持つ、点、は消失と に動いている、ということか。エ う、と。つまりは粒子、点、 相互作用が働き互いに転化しあ と考えられ、素粒子の間に電磁的 を構成する素粒子は極微の粒子 覚から、天文学的なまでの時間の 化を繰り返す。三綱は日常的な感 日本国語大辞典によれば、物質 は常

> とを直観的に、特に古事記屏風の としていたのかも知れない。 表現の為にその意味を考えよう ることから、「東洋の点は動く」こ

太古、

洞窟

めていく。 家としての制作活動の地歩を固 を深め応用し、三綱はその後の画 チエール」の独創的な技法に自信 事記屛風」で取入れた「綻びのマ 絵画での「時間」の概念を「古

「古事記屏風」の完成

手するのにも困難であったに違 くことの困難さは、画材ひとつ入 時下の状況のなかで屏風を描 一九四四年から四五年当時 0

と思えてならない。 筆を持つ力を突き動かしていた 成させておきたいという覚悟が どうなるか分からないが、絵は完 らいは分かっていたと思う。いつ ても首都圏の炎上、戦況の不利ぐ りこえ「古事記屛風」は完成した。 ともあれ先駆的な技法によ 終戦時の年、報道管制下にあっ 一九四五年に様々な困難をの

綱にも圧力、要請はあっただろう。 る戦争画を描いた。当然、井上三 **高揚の国策に協力する為、いわゆ** 国化のための翼賛体制の理念 古事記神話は国家主義の精神 多くの著名な画家が戦意

的支柱として早くから教育され、 にされた。それに最もふさわしい

の表現に通じる世界を感じさせ り西洋的でもある普遍的な人間 幸」《重文》に見られる東洋的であ 品「わだつみのいろこの宮」「海の あるような、人、への眼差し、青 でも東洋でもなく、どちらででも いも、気配も感じさせない。西洋 の大合唱の世情のなかでその匂 うか。少なくとも驚くことに翼賛 記屏風」にそれは表現されただろ を顕すかである。完成した「古事 けられている。いかにその「気韻」 て古事記への眼差しは、個、と ではない。ところが三綱にとっ 題材ともいえる。そこに在るのは 木繁の古事記をテーマにした作 しての〝人〞の〝こころ〞に向 家であり、個、としての、人

青木繁「海の幸」と「古事記屏風」

描きたかった世界ではなかった そのものであり、これこそ青木が ーにあふれた民族の心は古事記 くても漁師たちの生のエネルギ の場面が古事記に登場していな した連作に情熱を注ぎ、「海の幸」 私は青木繁が古事記をテーマに 材にしたとは見られていないが、 かと思う。 「海の幸」は必ずしも古事記を題

いるのは有名な話である。 いった折の経験がもとになっ の千葉県布良海岸に写生旅行 「海の幸」は青木と友人三人で

> にした「山の幸」の名作も生まれ の生活の風景を全身に浴びて制 坂本の言葉によってインスピレ 作の構想があったと坂本は述べかねて「海の幸」「山の幸」の二部 ていたかも知れない。 生きしていれば、「山幸」をテーマ 作となった。もし青木がもっと長 作し、秋の白馬展に出品して話題 ならではの見聞きした海と人々 ーションを得て構想し、布良海岸 あったことを示している。青木は 幸」「山幸」の神話が青木の念頭に ている。このことは古事記の「海 応したのは青木であった。彼には と坂本は明かしている。激しく反 を実際に目撃したのは同行した 青木繁に語ったのが真相だった の幸」のモデルになった情景

こに一人だけ一瞬こちらを向 マチエール〟その時間の概念かかく、私には井上三綱の〝綻びの という。その是非についてはとも となどは未完としか見られない れた。群像の右端の人物の下書き 推移も前方に向けられていく。そ 終えて荒々しく移動する人々の らすると構図は右から左へ漁を の線がそのまま残されているこ て完成か未完かの論議が交わさ た女性らしき顔は、 あえて残すことで視点も時間の 後方に、線のみで描かれた人物を 「海の幸」はその後、作品とし

> 徴的に描かれていると私には思がその心に向けられるように象 したのは恋人への想いか。或いはする人の視線が注がれるように 同時に一人の、人、への眼差し モデルとされるが、この絵を鑑賞 えてくる。 した青木の恋人福田 たね

質が、最も身近な同時代の編者に苦悩と祈りといった民族の原型 のではないか。 記録された。青木繁はこれらと よって、文字言語として反映され その息遣い、所作、想い、歓び、 編纂されたにせよ、当時の人々の古事記神話は空想的に書かれ 「同等の気韻」を表現したかった

のエピソードは、緊張感に満ちて、かし構成されたそれぞれの神話行に沿っているわけではない。し での、天孫系の直系を示す重要なの娘トヨタマ姫と出会う場面ま する。その人物の配置は事績の進も人間臭く、ドラマチックに展開 神々の振舞いにしてはあまりに わだつみのいろこの宮殿で、海神 針を失い捜す旅の途次に、海底の エピソードが語られる部分で、 れる話、山幸が兄から借りた釣り の軋轢を経て、海幸と山幸で知ら 式から、アマテラスとスサノオと キとイザナミのいわば婚姻の ったのは「古事記」の冒頭イザナ 一面全体が不思議な調和に保た 「古事記屏風」で井上三綱が 儀 扱

> 気韻の中へいざなう。 ている。見るものに古代神話

と穀物、 求めたのではないかと思う。 その「気韻」を古事記、万葉集に のり超えて、見出される可能性、 はざまで、次々と神々として誕生 生の国〟と〝死の国〟の往還の その挿し絵でも、 事記に取材し、描こうとしたのは していく姿、その生と死の苦難を 場面でもない。人、国土の出現 青木繁が、そして井上三綱 文物が、太古の人々の 〃 歴史的な記録の

っていく。 象表現の屏風制作にも取り掛か をかけ「牛」などの造形、その抽 た三綱の画風はその後、更に磨き 「古事記屏風」によって確立し

「三綱芸術」の海外評価

作展、団体展、 出品され(計十一点)、七一年には から、六曲二双を含む六曲屏風、 とになる。屏風作品は古事記屏風 おいて高い評価を受けていくこ にわたる旺盛な創作で国内外に 待個展に応ずるなど、また日本秀 ワシントンIMF世銀画廊で招 行招待展に毎年一九七○年まで 代美術館に収蔵された。 都合十四点の大作を完成させた。 特に「牛群像」(一九六二年)から 屏風が海外のIMF世界銀 「黄鍾調」が東京国立近 国画会会員で十年 (結びに)

これらの事績はすでに画集や

いるので割愛するが、一九五二年カタログ等で詳しく紹介されて での制作となった。 タログ等で詳しく紹介されて のアトリエ

の風土を彷彿とさせる。 ールに包まれていく。それらは画 の枝垂れ桜、の風情を感じなが 〇年悠然と咲き続ける、長興山 の木々との鮮やかな色合い、四〇 える新緑の時期や、落葉する季節 る限り、この上ない天地であった で「山中のアトリエ」は写真で見 家、井上三綱を育んだ故郷、 に違いない。常緑樹に交じって萌 四季をめぐる自然風土のなか 小田原近郊から箱根連山の 刻々と変化する複雑なマチエ

問題でもなかった。 疑問は井上三綱にとっては であり空間であった。私の冒頭の なった欠くことのできない要素 出会い、それらは創作の源泉とも かけにもなった世界の知性との 三綱の芸術にとって飛躍のきっ に携わる人や、芸術家との交流、 群を縁に、小田原近郊の文化活動 またアトリエで生まれた作品 何の

> サム・ノグチ (アメリカ彫刻家)、エロバート・オッペンハイマーやイ ビット・リースマン(ハーバード大 リーゼ・グリリー(美術評論家)、ダ いうことか。 するにはまだ〝時間〞が必要と の芸術」の先見性、独創性を理解 かったとはいえ「三綱の仕事・そ 三綱自身の関心事がそこにはな まってこなかったように見える。 絶賛する評価の言葉が寄せられ 学社会心理学創始者)等々、海外から たのに比して、国内での反応は高 バート・オッペンハイマーやイ 「井上三綱」 への評価は前述の

をのり超えようとした三綱の仕く、洋の東西を踏まえつつ、それ に基づく評価ができるかどうか とのギャップを埋めるだけでな 忘れられてはならない画家とし である。〝時間〟の経過によって 事と作品について、より深い理解 たい、人、である。 て記憶の壁画に刻み付けておき 問われているのは海外の評

自身にも向けられた、やっかいで 挑戦し甲斐のあ 面倒で困難な、

(8) 万葉の心 「井上三綱作品集」 井上皓

市美術館(一九九八年)

う表現するか、それは今、わたし

何を何の為にどんな技法でど

う地域を愛し大箱根入生田とい三綱は小田原、 もある。 りすぎる問いで

> など、一部の関係者から伺うこと 別の機会に或いは、関係者に委ね の芸術」を知るための一環として、 ができたが、それらは今後「三綱 の交流の場としてのエピソード 進の指導に当たられ、アトリエで 成されたり、画家以外の人でも後 一九三一年「相州美術協会」を結 の西相美術展の前身にあたる (二〇一八年八月)

(参考文献

- 術社 (一九四四年) 「萬葉畫集」井上通泰選、
- (2) 「井上三綱画集」美術出版社 $\widehat{}$ 九
- (3) (一九七六年) 「古事記・万葉画集」東美デザイン
- (5) 「歌集・みのむしの歌」風書房 (4) 「井上三綱画集・時間について」 美デザイン (一九七八年) 九七八年) 東
- (7) 「生誕百年記念・井上三綱展」平塚 (6) 「豊饒なるフォルム 日本放送出版協会(一九九五年) 世界』」(編集委員会代表・松永伍 『井上三綱

会員の方へのお願い

子著、文化堂)(二〇〇三年) 話と芸術」石橋財団美術館・ブリジス 「没後百年、青木繁・よみがえる神 「井上三綱ー入生田のアトリエか ,每日新聞社 (二〇一一年)

申し込みは史談会役員または左記

へ連絡願います。会費は年額三千円

味をお持ちの方にぜひ会員になっ ていただくよう、お誘いください。

募集しております。郷土の歴史に興

小田原史談会では常時新会員を

新会員募集 —

小田原史談会・2019 年度「年次総会および講演会」の予告

日時: 2019 年 6 月 1 日 (土) 午後 1 時~4 時

場所:市民交流センター(UMECO)第1~第3会議室

内容: (1) 2019 年度年次総会 午後1時~2時

> (2)講演会(講師、演題未定) 午後2時15分~4時

*詳細は4月号にてご連絡します



(文献(10)より引用)

切にされた。

らー」小田原郷土文化館、松永記念館

小田原市堀之内三一一— 五 ○四六五一三七一七一八八 植田 士郎

匹 中 現 城 (南中) 誕生 の

四中初代校長の思い 出

本

るから、もう八年の歳月が流れた 図書館奉仕課長に出て三年にな 事を五年、更に現在の(神奈川県立) たが、思い出はつきない。 に二年九ヵ月の短い期間であっ わけである。私の校長在職は僅か 二五年一月末であった。それから (神奈川県) 県教育委員会の指導主 中の校長をやめたのは 昭

た紳士(?)であるが、当時は髭も の背広服に派手なネクタイをし いたものである。今でこそダブル の凡てをつぎこんで遮二無二働 情熱と、そして私の教育的な信念 のであるから、私の若さと馬力と いう責任ある地位に立たされた 大切な、しかも新制中学校建設と 当時若干三六歳で校長という



二年にかけて、中学校教員組合

ものである。 祭といわず早川といわず、水ノ尾 ーに古自動車を乗り廻して、風 山の中までかけずりまわった 国民服をなおしたジャン

を加え、初老的自覚症状を覚える ようになると、しみじみ当時がな つかしい。 あれから十年、 昨今両鬢に白髪

初の嫡出子である。 最

突然の校長辞令

緒に通年勤労動員などに出て、 命の努力をしたものであった。 国の必勝を信じて生産増強に 次第にはげしくなり、生徒達と一 のである。恰度(ちょうど)戦争が 在の県立翠嵐高校)の先生になった 青年学校などの先生を経て、昭和前小学校、横浜の吉田小学校、同 一五年に県立横浜第二中学校(現 一年広島高師を卒業し、川崎の宮 ところが、戦後の食糧飢饉、 私は昭和七年鎌倉師範、 昭 和一 懸祖 悪

兎に角、四中は私の教育観の

た。 論の自由、 改革が、いや革命が行われていっ られて、目まぐるしい程の速度で たれていった。 新しい民主主義建設の布石も打 組合の結成、政党の復活、出版言 に古い日本の体制が崩れ去って 皇のマッカーサー訪問など、次々 った。古い日本は根こそぎ打ち破 国の歴史にとっての大事件であ いった。一方、婦人参政権、 昭和二〇年八月の敗戦は、 天皇神格化の否定、そして天治安維持法の撤廃、財閥の解特高警察の廃止、政治犯の釈 戦争犯罪者の追放など わが

動していたのである。闇市と買出 の食糧飢饉、インフレという気狂 展するまで、全く狂瀾怒濤時代と 率された小学生の食糧デモに発 の米よこせデモ、はては先生に引 し列車、宮城に対する世田谷区民 いってよかった。 いじみた世相の中に右に左に激 て、こういう歴史の変革が、戦後 昭和二〇年から二一年にかけ

こうした激変する世相の中に、

の動乱の中に訪れたのであった。 活にとって、 の辞令をうけたのである。私の生 グポイントが思いがけなく歴史 その頃突然、小田原四中の校長 全く大きいターニン

廃虚の中に生まれた新制中学

本国憲法が発布され(二一・十一・ いよいよ新日本の基本法たる日

> 三)、世の中に一応秩序が恢復さ 建設への曙光が見えはじめた。

学校にかかえ、一方、戦災孤児の 供をガラスもない廃墟のような 令の中に、続々帰る学重疎開の子 学校こそ開鎖されなかったが、国 と同時に虚脱状態に落ち入った。 は全くなす所を知らなかった。 不良化、浮浪児の続出など、教師 家と宗教の分離、修身歴史教科書 出陣など戦力増強の教育も、 学徒動員、修業年限の短縮、学徒 抹消など相次ぐ米軍政部の指 戦後の教育も又同じであった。

制の所謂六・三・三制が実施され 敗戦の廃墟の中に義務教育九年 教育は、否日本は次の新しい時代 が制定され、学校教育法も出て、 たのである。 への脱出の機をつかんでいった。 本国憲法が公布され、教育基本法 こうした時代の背景の中に、日

に理想の炬火をかかげたのが二 神の復興から、どん底の苦悩の中国家の再建はまず青少年の精 主の使命を負わされて、 校であった。 二年五月五日の新制中学校の開 たしかに新制中学校こそ救世 貧困な嬰

児として月足らずの早産を余儀 なくされたのであった。

副校長と二人でやった開校式

輩」の首相放送が表徴する労働攻 昭和二二年は、元旦の「不逞の

受けたのである。 第二中学校に籍をおいて中学校 述したように私は当時県立横浜組合運動の激動の中にあった。前 マッカーサー禁止指令など、労働 勢の中に、続く二・一ゼネストの 田原第四中学校の校長の辞令を の教員組合長であったが、突然小

所に、続いて小田原市役所に教育 背負った私は、足柄上郡教育事務 界の感がした。リュックサックを 戦災をまぬがれた小田原は、別世 浮浪児のうごめく横浜に比して、 簡単なものであった。 その時わかったことは次の様な 課長を訪問し赴任の挨拶をし、指 て小田原に赴任した。戦災の横浜 **不を仰ぎ事務的な打合せをした。** 二二年四月末、私は辞令をもっ

・一中に杉本校長、二中に石川校 長、三中に岩田校長、四中に私を 小田原に四つの中学をおく。

決定をしてほしい。 は各小学校長と交渉し最終的な 学校におく方針であるが、新校長 三中を足柄、四中を大窪の各小 と先ず、一中を本町、二中を新玉、 ・中学校の校舎にあてる所は、ひ

至急手配をしてほしい。 る。新校長は職員組織につ 近く副校長を発令するが、現在 開校式は五月五日、 斉に実施する。 かな職員の発令を準備中であ 全市 ついても

> られていない。 ・このための予算措置はいまだと

単身小田原に赴任したわけであ 時私は家族を故郷の津久井の山をおき、「組閣本部」を開いた。当 の中に疎開させていたので、私は リュクサックを背負って大窪小 学校に行き、高橋校長に挨拶をし、 桜の映える静かなお堀端の道を、 壮である。花の散った四月末の葉 偉大なものの誕生は 貧困

どいろいろ御指導を受けたも ことなど。その頃早川に、いまだ 運命、そして津久井にいる家族の 他の校長達と会って研究連絡 である。 鈴木十郎さんのお宅にお伺いし 市長さんになられていなかった 独り考えた。四中の構想、日本の た方がよかった)を、夜は宿直室に いうと体裁がよいが、暗中模索といっ て、北村透谷の話や土地の気風な 私は、昼間は学区内を歩き、又 <u>ک</u> \mathcal{O}

ワラ半紙、便箋、鉛筆、定規で事と磯崎先生が持ち寄った私物の 長をしている磯崎先生を副校長 務をしたのである。 ワラ半紙、便箋、鉛筆、 に迎え、二人で開校式の準備をし た。紙一枚あるわけではない。私 こうして今、久野の小学校の校

五〇名が集まった。磯崎先生が司 小学校の講堂に一、二、三年約二 五月五日、開校式である。大窪

> と言いたい所だが、校長、副校長 らも来賓がこられて、若葉映える 壇に上ったり降りたりして、市か な開校式であった。 二人だけでやった、全くささやか 五月の薫風の中で、 会をやったり説明をやったり、教 盛大に・・・

流れていた。新制中学校の誕生式新制日本の誕生を謳歌する声が あった。 るぞ」と堅い決意のもとに、四中 の建設に精魂を打ち込んだので てもいつの日にか「日本は立ち上 はこんなささやかなものであっ れ、ラジオのスピーカーからは、 べき日で、町では提灯行列が催さ この日は新憲法施行の記念す

禁ずることができない。 当時を思い出して涙の出るのを 見ようとは夢想だにしなかった。 本の復興と新制中学校の隆昌を か十年でこんなに早く、今日の日 しかし、その日から数えてわず

校地探しに奮闘

され、大窪早川両地区民からの支 校舎も今はとりこわされた大窪 内閣が誕生した。その頃四中は旧 興奮にかりたてられる。その結果 持も得られて、 追い追い補充され、PTAも結成 小学校より三教室を借り、先生も 大窪役場の三階に職員室を移し、 は、わが国はじめての片山社会党 憲法が施行され、街は総選挙の 教科書はなく謄写

校の態をなしていった。版刷りのものであって 八月一日妻の急逝、小字校一年の 幸が重なった。五月一九日父の死、 かし、私自身思いがけない りのものであっても漸次学

不

た私は、葬式後、女中さんをつれ長男を頭に四人の子をのこされ

て板橋に居を移したが、悲しい苦

しい生活であった。

根療養所看護婦寮の払下げ運動 設会員会を結成し種々の対策が頃新校舎を獲得しようと四中建 けたが、 療養所長との交渉など熱心に続 さんを中心に厚生省への陳情 であった。この運動は小田原市長 立てられた。最初は風祭にある箱 流してばかりはいられない。その といって、そういう私事に涙を 遂に失敗した。 Þ

寺の住職さんの親戚であるPT ったのである。私はこの時の苦し 高幹部から四中不信の声があが や如何にと苦慮の最中、PTA最 獲得運動の失敗、四中建設の方途 なかった。相次ぐ肉身の死、校舎 た。この時程私を苦しめたものは 校させたいという申し出があっ 小田原市内の某私立中学校に転 の親達が、四中から子供をさげて、 A副会長の某氏をはじめ五、六人 ていた早川選出の市会議員久翁 頭、当時建設委員会副委員長をし 折柄、夏休み明けの二学期の初 口惜しさを終世忘れることが

至った。

至った。

至った。

三の四中にまで成長するに接に依ってこのピンチを切り抜り川両地区の方々の絶大なる後

四中建設の基礎を作り上げるとができ、初代校長としての任ことができ、初代校長としての任務心な四中の先生達の力は勿論熱心な四中だ」という悲願にもであるが、この大窪早川両地区のであるが、この大窪早川両地区のであるが、この大窪早川両地区のであるが、この大窪早川両地区のであるが、この大窪早川両地区のであったからこそである。新制中があったからこそである。新制中があったからこそである。新制中があったからこそである。新制中があったからこそである。

地としての価値は大きい。 地としての価値は大きい。

動かし、地元大窪農業協同組合へも働きかけ、市当局にも諒解を得た。近く四中が板橋用水取入口の対岸、早川の土地に新築されるときくとき、仏の香林寺山構想が幾分でも役立てられたらこれにまなるものはない。

れがあった。 高業高校の校舎に移るよう申入 をの結果、四中に現校舎の小田原 制中学校綜合建設計画を立てた。 制口の立川工作所買収による新 川口の立川工作所買収による新

世たのである。
建設委員会の賛成を得て、現在地は勿論のこの地に移った。現在地は勿論のこの地に移った。現在地は勿論時の小田原市当局の市綜合計画時の小田原市当局の市綜合計画中で一日も早く新制中学校の内である変則を認めてまでに校舎のあ力と、けわしい社会状勢のへの協力と、けわしい社会状勢のである。

小田原市が早川漁港を中心と 小田原市が早川漁港を中心と れ田原市が早川漁港を小と である。そのとき四中は位置、 はである。そのとき四中は位置、 はである。そのとき四中は位置、 はである。そのとき四中は位置、 は、構想にあやまりなきを祈っ

中の「新商法」

あった。市予算の苦しい中では、学校の建設は金のかかる仕事で戦後インフレの中での新制中

はこの構想で建設委員会を

だけ儲かるという「新商法」であればない。全校生徒が山に薪取りいってそれを売ったこともあった。ごのバザーでもうけたこともあった。このバザーはPTAの持寄りた。このバザーはPTAの持寄りた。このバザーはPTAの持寄りた。このバザーはPTAの持るという「新商法」である結局大窪早川地区の方々に頼る

の方に足を向けて寝るとバチがらい御利益で、四中はお地蔵さん のらしい。四中には、それこそえ が薄らむようになったが、あれで花が萎れ、ほこりがついて有難味 これも最初の香の花をPTAで あたると思うくらいである。 善男善女には結構御利益がある ては売り、もらってきては売ると ったものを裏口からもらってき かなか恥ずかしい思い出である。 いうやり方で、夕方になると香の 寄附して、あとはお地蔵さんに上 蔵でのお線香と香の花売りもな 八月と一月の年二回 0 板 地

若さがあったからこそと、思い出若さがあったからこそと、思い出がり助けを求めたのも三○代のあ思い出である。自動車を無灯のも思い出である。自動車を無灯のも思い出である。自動車を無灯のも思い出である。自動車を無灯のも思い出である。自動車を無灯がり助けを求めたのも三○代のあり、金になることなら何でその他、金になることなら何で

すとなつかしい。

全国に先駆けた学校図書館

事件が世情慄然たる中に、片山内 事件が世情慄然たる中に、片山内 海外共に新旧、左右の対立と相剋 海外共に新旧、左右の対立と相剋 海外共に新旧、左右の対立と相剋 を方は板橋駅前の早川にかけた 自製の丸木橋を渡って田圃沿い 自製の丸木橋を渡って田圃沿い に掛け持ち授業をしてくれた。こ に掛け持ち授業をしてくれた。 に掛け持ち授業をしてくれた。

であった。

「三年七月には待望の商業学であった。

ものである。

党は三五名の多数の代議士を獲二四年一月の総選挙では、共産

得し、第三次吉田保守党内閣が出来て、いよいよ国内は左右の対立来て、いよいよ国内は左右の対立に、今年こそ教育内容を充実し新に、今年こそ教育内容を充実し新に、今年こそ教育内容を充実し新たった。四月の新学期で激突して、カリキュラムだ、ガイダンスだと、教育の現場指導にのり出した。

館につくした啓学的役割は大き のであるから、四中の日本の図書 書館に匹敵するものがなかった は勿論、日本全国にもこの四中図 **驚異であった。当時、神奈川県内** 自由に利用出来る四中図書館は えも及ばなかった定成接架式で 約一二〇〇冊の蔵書がいまだ考 作り、八月新学期と共に開館した。 が、夏休み中を利用して図書館を するなどの不幸な事件があった が上陸し、再び早川の両岸が決潰った。二四年八月にはキティ台風 を立て、先生方といろいろ話し合 五月より学校図書館建設の構想 学校図書館にあり」との考えから 礎作りは、まず教科教室の経営と 五月であった。私は「新教育の基 八地区で開かれたのも二四 第一回のワークショップが 年

研究会は、今でこそどこの学校で名の先生方を招いて開いたこの表会を開いた。県下より約二○○この年十一月、学校図書館の発

栄としている所である。 常としている所である。 学としている所である。 学としている所であるが、当時と も見られるものであった。この四中図書館がその であった。この四中図書館がその であった。この四中図書館がその

の凡てではない。それは二五年度の別ではない。それは二五年一月末、明寺をの段階にゆく考えのとき、はからの段階にゆく考えのとき、はからの段階にゆく考えのとき、はからの段階にゆく考えのとき、はからの段階にゆく考えのとき、はからの投階にゆく考えのとき、はからの段階にゆく考えのとき、はからの投階にゆく考えのとき、はからの教育を表のとき、はからの表言という。

すび

て食どらく。 るにあたって四中の発展を祈っるここに初代校長の思い出を綴

載させていただきました。青木良一)ご子息の山本明徳氏の御了解を得て転記念』(一九五七年 城南中学校)より、

語り手 松岡 輝宏さん観測装置は手作り

箱根の観察

た。 気象観測、飯田和先生が生物だっ と生物調査をした。清水浩先生が とすり調査をした。清水浩先生が 城南中学の科学部は気象観測

初島の総合調査

は最初早川の港から漁船で行く冬休み、春休みに行った。初島へきに始まり、二年、三年の夏休み、夏に調査を始めた。私が一年のと夏に調査を始めた。私が一年のと

はでは、 はでいた。 はでいて鍋をひっくり返ってきてくれることになっていた。 またが、運んでいて鍋をひっくり返ってきてくれることになっていたが、 事を作るために来た。 お汁粉を持来ていた。 また、用務員さんも食 を行るために来た。 お汁粉を持 を行るために来た。 お汁粉を持 をでいた。 また、用務員さんも食

とか、気象の方ではどういう風がとか、気象の方ではどういう風がいき、風により塩分がどういうふうに島に運ばれるのか、日にちを決め二十四時間でどうなるかを調査した。松島俊治先生は海藻が専門だったので、海岸での調査もした。これが評価されて昭和三十した。これが評価されて昭和三十位を受賞して、飯田先生と生徒代位を受賞して、飯田先生と生徒代表が天皇陛下に拝謁した。

る。の自然を探る」にまとめられていの自然を探る」にまとめられてい四十四年十二月に発行した「郷土」これらの科学部の活動は昭和

意欲的な指導

科学部のこのような活動ができたのは、昭和三十年代に入って、きたのは、昭和三十年代に入って、時代が新しくなったという、そう時代が新しくなったという、そう時代が新しくなったという、そう時代が新しくなったという、とかでます。生徒にいろいろなことを学べる体験することがでことを学べる体験することがでいた。遠藤貞治校長の理解揃っていた。遠藤貞治校長の理解揃っていた。遠藤貞治校長の理解がで、大きなに、いろんな分野の先生があったですね。校長も応援している。

っぱいあった。ところに行けて、新しい体験がいらい、自分たちだけでは行けないらい、自分たちだけでは行けないたです。私は野外に連れてってももの、春も夏も遠足は山が多かっもの、春も夏も遠しはいイキング的な

「まず、城南」

吹奏楽と云いうとまず、城南が吹奏楽と云いうとまず、城南ができた。パレードをやると植山出てきた。パレードをやると植山出できた。吹奏楽もそうだった。初島の自然観察のまとめの時は八時九時がざらだった。用務員さん時九時がざらだった。用務員さんで、我々は吹奏楽を聞きながら科さいう協力があったので、出来た。我々は吹奏楽を聞きながら科

体を見られて、あったかい雰囲気小さくまとまれた。先生が生徒全城南中学は小規模校でわりと

長をされ、現在同窓会長。 三年から十八年まで城南中学校の校 三年から十八年まで城南中学校の校 だった。 (聞き書き 山口隆夫)

ラッパ吹いたよ

らり 風間 亨

吹奏楽やれ

他は昭和十七年(一九四二)生ま を勉強した。 を勉強した。

ったな。
四中に入ったのは昭和三十年四中に入ったのは昭和三十年

くような楽器だった。て、終わってから帰れば緑青がわたね。楽器を磨いて演奏会に行ったね。楽器を磨いて演奏会に行っ

んで、馴染めるのが遅かった。こんで、馴染めるのが遅かった。

解してくれていた。 解してくれていた。 解してくれていけると思って は小田原を出ていけると思って ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強すれば、高校卒業すれ ともに勉強を見た。 ともにもいた。配給で親が順番待って の地域から早く抜け出そうと思

植山先生のこと

をとしてはラッキーだった らとしてはラッキーだった。 こち 庭を省みないくらいだから、奥さ がは出先生はぞっこん自分の家

先生は分け隔てなくしてくれた。一年坊主だけど楽器渡された。 本で三十人から四十人くらいで、 体で三十人から四十人くらいで、 それも定かじゃない。俺は(トラン) ペット。パッと見て身体小さいし、 でいる時に肺活量検査をして、 部に入る時に肺活量検査をして、 部に入る時に肺活量検査をして、 かい楽器を吹けないのでトラン さい楽器を吹けないのでトラン ペット。でも卒業のときには四二 ペット。でも卒業のときには四二 のつだったね。

さんは百回くらいまでやったん

いから。

いから。

ないとどうしようもないとにかく音を出せ」と言われたよ。練習は厳しかった。先生にはないをはないをでいまではないがあれたがあれたがあると唇がきれたやってると唇がきれたがある。

奏に行った。合宿は、一年は湯本りなく。けっこうあっちこっち演練習は遅くまでしましたね。限

した。そのときには地元の人にも演奏小学校、二年三年は桜井小学校で、

た。

ないの中学とはレベルが違っていれて吹奏楽部に入った。城南は、れて吹奏楽部に入った。城南は、かが、一トが決まっていると言わかれるのもりがなかったけど、もをやるつもりがなかったとき、吹奏楽小田原高校入ったとき、吹奏楽

どっか行って写譜する。コピーな善譜面がないから先生は自分でさんのスパルタもあった。クールに出ていた。それには植山クールに出ていた。それには植山

て、それが今年で百十三回。植山月と十二月に年二回演奏会をし究会ができて植山さんが会長。六宮校のときに小田原吹奏楽研っておくけど。

れた先生だった。
中学のときは終戦直後の物が中学のときは終戦直後の物が

風間よ・・・」

ったが、「風間よ、俺は青山師範かあるとき、 先生が亡くなる前だ

ら海軍に入った。だから音楽何にら海軍に入った。近からか、先生の教え方れて吹奏楽を始めたんだよ」と言れて吹奏楽を始めたんだよ」と言れて吹奏楽を始めたんだよ」と言れて吹奏楽を始めたんだよ」と言いるうよ。

ートでね、ダンディだった。 また、山に行ったとき星空を見ながら、「風間よ、女にデレデレしながら、「風間よ、女にデレデレしながら、「風間よ、女にデレデレしながら、「風間よ、女にデレデレしながら、「風間よ、女にデレデレしるがられる人だった。海軍だからスマのある人だった。海軍だからスマのある人だった。海軍だからスマのある人だった。

寺子屋を始めた

がきっかけさ。

本応寺住職の坂井のと塚正孝と、本応寺住職の坂井のと級でJR東海副社長をやった石級でJR東海副社長をやった石のてる。還暦過ぎて城南中学の同ってる。

い人を呼んでます。

・大供が自分では社会に対していた。

・ はいのために正しい道は何から。

・ はいがははのがでが、一年になりますよ。

・ はいがははのががですが、一年になりますよ。

・ はいがは、一年になりますよ。

・ はれ会に対している。

校生を対象にしていたけど、子どしかし、小学校の高学年から高

もがいねえんだよ。部活や塾に時間を取られている。だから、じいざんばあさんが集まってくるけさんばあさんが集まってくるけど、それも有りだと。市が公開講座にしようといってきて三回ばかりやっているのも、我々が飢えてた頃の思返しをしようということをやっているのも、我々が飢えてた頃の恩返しをしようという部活や塾に時もがいねえんだよ。部活や塾に時

三綱さんと四中

-年頭の挨拶にかえて―

松島 俊樹

れて来た。り二五六号の通し原稿が添付さ挨拶を書いて欲しい」と依頼があ挨りを書いて欲しい」と依頼があ

巻頭は三綱さんの記事。私が小 巻頭は三綱さんの記事。私が小 を重なと、 を二軒屋で住んでいたが、そこに を二軒屋で住んでいたが、そこに を二軒屋で住んでいたが、そこに を二軒屋で住んでいたが、そこに を二輌さんが訪ねて来られた。 はその写真から何かイメージ んはその写真から何かイメージ んはその写真から何かイメージ んはその写真がら何かイメージ たことを思いだした。

頃私は中学生。現スポーツ会館に頃」。父がそこの教員をしていたさて、次の記事は「四中誕生の

思い出は思い出を呼ぶ。テバルディが歌っていたな。マリオ・デル・モナコ、レナータ・マリオ・デル・モナコ、レナータ・アレビで放映されるイタリアオテレビで放映されるイタリアオテレビで放映されるイタリアオ学校がありテレビを何度か見に学校がありテレビを何度か見に

慈生院釈茂山居士 とは、 とは、 を献呈されていたはずだ、と我になのりそ)」に三綱さんが題字と がパソコンを検索したら、幸いにいいかはずだ、と我になのりを)」に三綱さんが題字とがパソコンを検索したら、幸いにおいたはずだ、と我にない。 一、 と、 一、 と、 で、 と、 で、 と、 でいたはずだ、 と、 と、 でいたはずだ、 と、 と、 でいた。 でいたはずだ、 と、 でいた。 でいた。

君が歌ひしごと

天然

井上三綱

伏し転ぶ われ道のべに

君逝きし世へ ことづてせむとなんぞかく 悲しきなんぞかく 悲しきなんぞかく 悲しきなんぞかく おしき

伏し転ぶ 吾道のべに

思ふなり

なりにけり 今は 片見とは 君が植えし 吾が宿の山桜

教へ子のあまた集ひてうからはらから 山桜いと小さき 山桜

春来なば ことづてもちて

うたけせむ その山桜しきたへて 福根のねろのにこぐさをあしかりの

彼の岸辺に 君を送る彼の岸に 君を送る今日九月廿一日

曼殊沙華 野に充てり経吟弄華 咲き初めね

し下さい。 思い出に浸ってしまった。お許 て、いつのまにか我が懐かしき 年頭の挨拶をそっちのけにし

注「莫語花」とは海藻のホンダワラの

酒伝童子絵巻

巻 ― 京文化と小田原

はじめに

化面など多面的な要素を含んで 意味もさることながら、経済面、文 って極めて重要であった。政治的な られる。このラインは、北条家にと 条家がたどった道筋であると考え ラインである。これこそが、早雲の くる。 それは、 京―駿府―小田原の 田原の位置づけが浮かび上がって 早雲の動きを見ていると、当時の小 を越えて小田原へ進出を果たした。 する地位を確立した。そして、箱根 重臣となり、駿東と伊豆半島を支配 利将軍の申次衆として京で政治的 八生がたどり、そして、その後の北 、脈を築き、駿府の今川家に仕えて 若き伊勢新九郎(北条早雲)は、

構築した。そして、今川氏の先進 構築した。そして、今川氏の先進 に居城を構えた。施策を次々と実施 に居城を構えた。施策を次々と実施 に居城を構えた。施策を次々と実施 に居城を構えた。施策を次々と実施 だ。その一つが小田原の町づくりで た。その一つが小田原の町づくりで ある。そのために京や駿府から職人、 ある。そのために京や駿府から職人、 ある。そのために京や駿府から職人、 ある。そのために京や駿府から職人、 ある。そのために京や駿府から職人、

した。

深野

彰

京―駿府―小田原を結ぶ文化

は小田原城を訪れた賓客を接待する、出土した。 建物と池の間は、切る。出土した池の湾曲した外周にある。出土した池の湾曲した外周には、石塔の土台部を利用した石積みは、石塔の土台部を利用した石積みは、石塔の土台部を利用した石積みは、石塔の土台部を利用した石積みは、石塔の土台部を利用した石積みは、石塔の土台部を利用した石積みは、石塔敷き詰めた石庭となっていた。北西原城を訪れていた(写真参照)。池の英堀



小田原城天守閣下の庭園の池跡

も過言ではない。
も過言ではない。
との説が生まれている。北条氏の時との説が生まれていたのである。応仁の代に、京にも類を見ない構造の庭園との説が生まれている。北条氏の時との説が生まれている。水条氏の時

小田原市久野にある北条早雲の小田原市久野にある北条早雲の小田原市久野にある北条東京哲のと連歌会を盛んに催した。三代・氏康松田長慶などの家臣や僧侶たちと松田長慶などの家臣や僧侶たちと松田長慶などの家臣や僧侶たちと連歌会を盛んに催した。三代・氏康四時代にも、連歌師・宗牧は氏患や、連歌師・宗教は氏患や、

冷泉為和が幻庵邸を訪れた記録も書「宗祇袖下」を書写した。公家の四代・氏政も連歌師・宗祇の注釈

室町・戦国時代の貴族たち

てこいであった。 公家文化は、彼らの権威付けに持 の勢力を確固たるものにすると、次 名たちは憧れた。守護大名が地域で 文化を、地方で覇権を握った守護大 った。一方で、そのような都の公家 家などが、代表的な家職の家柄であ 家、蹴鞠の飛鳥井家、衣紋道の高倉 ていた。歌道の冷泉家、歌学の二条 れの公家が代々相伝する家職とし が伝統的な公家文化であり、それぞ 家の暮らしを何とか支えていたの 次第に困窮していった。困窮した公 った。収入の道が断たれた公家は、 る地方の武将たちに奪われてしま 公家の収入源である荘園は、力のあ った。室町時代の中期ともなると、 ちは歴史の脇役へと落ちぶれてい 安時代末期から武家の力が増大し たちを想像してしまう。しかし、平 日々遊んで過ごしていた優雅な人 て政権を担うようになると、貴族た には何かの権威が欲しくなる。都の 貴族と云えば、 贅沢な暮らしと 見なされたのである。 臣家でも精華(せいが)家と同格と もあった。その優れた学識ゆえに、 また、後に三条西家の家職となる や漢学、そして書にも優れていた。 実隆自身は「古今伝授」などの歌学 ど貴い家柄ではなかった。しかし、 った。従って実隆の生家は、それほ 三条家もまた三条宗家の庶流であ 正親町三条家の庶流で、その正親町 の権威であった。一方、三条西家は 詰め、更に学者としても著名で歌道 である。一条家は五摂家の名家で、 点に立った二人がいた。一条兼良 三条西家は大臣家の家格を有し、大 「香道・御家流」を創始した人物で (かねよし)と三条西実隆(さねたか) 条兼良は関白太政大臣まで上り そういう時代の都に、京文化の頂

|条西実隆の日記「実隆公記

三条西実隆は、康正元年(一四五五)に三条西実隆は、康正元年(一四五九)に三条西家の家督を相続した。文隆が三条西家の家督を相続した。文隆が三条西家の家督を相続した。文隆が三条西家の家督を相続した。文隆が三条西家の家督を相続した。文隆が三条西家の家督を相続した。文隆が三条西家の家督を相続した。文明元年(一四六九)に元服して、永正三年(一五〇六)には出世して、永正三年(一五〇六)には出世して、永正三年(一五〇六)には出世して、永正三年(一五〇六)には出世して、永正三年(一五〇六)には明元年(一四六九)に示るを登り、天文との次明に表面という。

三条亙実隆よその主匪こ三ってな八十三歳の天寿を全うした。六年(一五三七)に当時としては長命

うに知ることができるのである。 両が届いたと実に詳細である。そこ 記録した。麦や米、扇一本、黄金一 な目的で来訪したかなどを詳しく 料である。翻刻版は十三冊もあり、 ていたと云う裏事情を手に取るよ しまった貴族の生活は貢物で潤っ から、荘園が地方大名に暴奪されて 筆まめな人であった。いつ誰がどん 亘って書き留められた。実隆は実に 空白も含めて六十一年もの長きに の天文四年 (一五三五) まで、数年の 様子を知ることのできる貴重な史 膨大な量の日記を遺した。それが 実隆公記は実隆二十歳の文明六年 小田原市立図書館も所蔵している。 (一四六四)から書き始め、八十一歳 「実隆公記」で、室町時代の公家の 三条西実隆はその生涯に亘って

頼している。実隆はこの求めに応じり、「源氏物語桐壺巻」の書写を依介して三条西実隆へ黄金一両を贈なのだろう。氏綱は連歌師・宗長を父・早雲から受け継いだ京人脈遺産父・早雲から受け継いだ京人脈遺産

て自ら書写し、氏綱の使者へ渡した。て自ら書写し、氏綱の使者へ渡した。なぜならば、実隆は痩せてもくい。なぜならば、実隆は痩せてもくい。なぜならば、実隆は痩せてもたからである。実隆は、あくまで自己研鑽のために源氏物語などを熱心に学び書写したのだろう。それをから、自筆本を与えてその謝礼を受から、自筆本を与えてその謝礼を受け取った。実隆にとって、謝礼の入は取った。実隆にとって、謝礼の入まはあくまで自己研鑽の結果であったと考えられる。京文化を支える第一人者としてのプライドも持っていたことだろう。

酒伝童子絵巻の制作

「酒伝童子絵巻」とは、大江山に「酒伝童子絵巻」とは、大江山にる。その物語は、一条天皇の御代に、る。その物語は、一条天皇の御代に、る。その物語は、一条天皇の御代に、る。その物語は、一条天皇の御代に、かった。

近江国伊吹山奥とする系統の二系近江国伊吹山奥とする系統の二系代と共に脚色されていった。酒吞童代と共に脚色されていった。酒吞童子の物語は、南北朝時代頃に成立し、子の物語は、南北朝時代頃に成立し、子の物語は、南北朝時代頃に成立し、百年代と共に脚色されていった。酒吞童民心、酒吞童子の桧巻作品は逸翁美術館所蔵最古の絵巻作品は逸翁美術館所蔵品が「御伽草子」を江江国伊吹山奥とする系統の二系江下時代中期の享保年間に、大江戸時代中期の享保年間に、大江戸時代中期の享保年間に、大江戸時代中期の享保年間に、大江戸時代中期の

に 「大江山絵詞」の二巻本で、「お伽 「大江山絵詞」の二巻本で、「お伽 「大江山絵詞」の二巻本で、「お伽 である。「酒呑童子」も棲家を大江 である。「酒呑童子」は「酒伝童子」、 である。「酒呑童子」は「酒伝童子」、 であるが、読み方は、どれも「し も書かれるが、読み方は、どれも「し ってんどうじ」である。

筆者を記した奥書がある。

綱が制作した。各巻末に詞書と絵の

太政大臣

(上巻)

太閤・近衛准三后、

前関

(中卷) 詞 法務前大僧正公助定法寺

絵 狩野大炊助藤原元信 (下卷) 詞 二品尊鎮法親王青蓮院

師となった。元信は父の画風を継ぎ、師となった。元信は父の画風を継ぎ、のが、三条西実隆である。これだけのが、三条西実隆である。これだけのが、三条西実隆である。これだけの京きっての文化人が並べば壮観の京きってのなと書かれているから「藤原元信」と書かれているから「藤原元信」である。元信は狩野派の祖・狩野正信の長男で、室町幕府の祖・狩野正信の長男で、室町幕府の祖・狩野正信の長男で、室町幕府の祖・狩野正信の長男で、室町幕府の祖・狩野正信の長男で、室町幕府の祖・狩野正信の長男で、室町幕府の祖・狩野正信の長男で、室町幕府の祖・狩野正信の長男で、室町幕府の祖・狩野正信の長地である。元信は父の画風を継ぎ、

外郎家は京と小田原の二家となっ う。京都の外郎家は定治の弟が継ぎ 五〇四)頃に小田原へ移住したと云 称していた。そして、永正元年(一 賜って、定治は字野大和守源方治と 利氏の祖籍である字野源氏の姓を 定治であった。将軍足利義政から足 郎家の当主は、陳外郎宇野藤右衛門 郎(ういろう)家であった。小田原外 次ぎの任を担ったのが小田原の外 ネージメント力も併せ持っていた。 築した。正信は画力だけでなく、マ 理することで多くの弟子たちを育 の説がある。狩野元信は、画法を整 弟子たちも制作に加わっていたと ので、元信一人で描いたのではなく 酒伝童子絵巻は、一巻の精緻さに比 雄渾な障壁画様式を確立した。この 土佐派の様式を融合させ、装飾的で 水墨画の画法を基にして大和絵の 絵巻物の制作を依頼した時に、取り て、大量注文に対応できる体制を構 べて二、三巻の出来栄えに差がある 「狩野派」と呼ばれる所以である。 北条氏綱が、京都の文化人たちへ

(一五三二) 五月二一日 「実隆公記」第八巻の享禄四年

帋持來之、 薫衣香二袋・透頂香 白粒・龍麝丸百粒・珍珠散二裹 外郎青侍酒傳童子繪奥書断

日には、 と記載されている。更に、五月二八

> 届けて奥書の礼に来たのであろう。 条西家へ貴重な香や薬剤の贈物を 家の家僕となる。外郎家の家僕が三 ていたから、「外郎青侍」は、外郎 ている。外郎家も公家の格式を備え 侍」とは、公家に仕える家僕を指し との記述もある。「外郎青侍」の「青 六月二十二日には、

酒傳童子繪銘、

奥書等三巻書之

外郎被官卯野來、北藤繪奧書三 向云々、 哥·天目臺一、周桂書状等渡之、 事・桐壷巻・詠哥大概・予獨吟連 勸一盞、筆十管賜之、月之交可下 住心院返事等渡之、宗長返

解釈すれば、小田原の宇野藤右衛門 家から出た (北条家の)被官字野」と を指す言葉であった。北条家に仕え とは地方の守護に仕える国人領主 まう。しかし、室町時代の「被官 と、宇野は外郎家の家来となってし あろう。「被官」を家来と解釈する を持つ定治が最も適任であったと 遣したであろう。それには京に人脈 のであるから、それなりの人物を派 人の家へ依頼品を受け取りに行く なる。北条家当主が、都第一の文化 家の被官」ではなく「(京の)外郎 力な被官である。それゆえ、「外郎 ていた小田原外郎家は、北条家の有 に絵巻を外郎字野氏へ渡したので 定治が京まで行って受け取ったと 「卯野」とは「宇野」で、この時

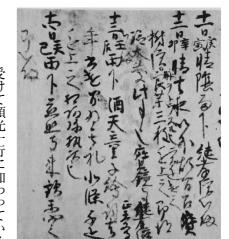
> の相阿弥であるとも記されて のは、同朋衆(どうぼうしゅう) の依頼を近衛家へ取り次いだ ったと記されている。北条家 条氏綱から銭千疋の進上があ たと書かれている。このことからも 衛門が来たので、返事を遣っ 三二) 七月五日には、字野藤右 いる。そして、享禄四年(一五 詞」を書き遣った礼として、北 十三日に、昨年「酒天童子絵 記」大永三年(一五二三)九月 近衛尚通の「後法成寺関白

受け取り、続いて七月五日に近衛家 へお礼の挨拶に行ったのだろう。 六月二十二日に三条西家で絵巻を 定治であると推定できる。定治は、 実隆公記の「外郎被官卯野」とは、

間にいったい何があったのかは定 していた時代であったから、受け取 かでない。ただ、公家もかなり困窮 から、随分と悠長な話である。この ようやく絵巻が完成したのである を大永三年に贈ってから八年後に った謝礼金はすぐに消えてしまっ て、製作期間が長期化したのかもし それにしても、北条氏綱が錢千疋

酒呑童子と坂田金

と呼ばれる勇猛な家来衆がいた。更 に、藤原保昌という貴族もまた命を 武、碓井貞光、坂田公時の「四天王」 頼光には、渡辺綱を筆頭に、卜部季 大江山で酒呑童子を退治した源



「後法成寺関白記」

げて式部に梅枝を届けて式部の心 受けて頼光一行に加わっている。こ を得た逸話が「保昌山」である。 を射かけられてしまった。何とか逃 から一枝を得たが、北面の武士に矢 ねだられた。そこで、保昌は紫宸殿 保昌は和泉式部から紫宸殿の梅を 族でありながら武勇にも優れてい の藤原保昌は平井保昌とも云い、貴 た。保昌は京都・祇園祭の「保昌山 (ほうしょうやま)」の主人公である。

に住む彫物師十兵衛の娘八重桐が 金時神社に残された伝説では、足柄 り、静岡県小山町に金時神社がある。 である。箱根外輪山には金時山があ とき」でも「公時」でなく「金時」 われた。足柄地方では、同じ「きん れて、自然の中で動物たちと一緒に 時の幼名が金太郎で、足柄山で生ま する人物といえば、坂田公時である。 育ち、熊と相撲を取ったと童謡に歌 「坂田金時」と同一人物である。公 「足柄山の金太郎」として有名な 頼光四天王の中で小田原に関係

更に、南足柄市の地蔵堂付近にもを太郎伝説が残っている。この地に会太郎伝説が残っている。この地に方。金太郎伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された、公時伝説は近江地方にも残された。

も楽しいものだ。 も楽しいものだ。 と想像するの時の大活躍があった、と想像するのでも、氏綱が酒伝童子絵巻を作成しても、氏綱が酒伝童子絵巻を作成した。北条氏の時代に金太郎に成立した。北条氏の時代に金太郎に成立した。北条氏の時代に金太郎に成立した。北条氏の時代に金太郎に成立した。北条氏の時代に金太郎に成立に対しているのだ。

酒呑童子と歌舞伎「外郎売」

團十郎は小田原外郎家へお礼に参 こうしてできあがったのである。 知した。歌舞伎十八番「外郎売」は、 と申し入れ、外郎家は舞台上演を承 團十郎は「ういろう」を広く知らせ 嗜んでいたので話がはずんだ。意仙 祖父第十三代相治)のもてなしを受け れて隠居宇野意仙(当主十五代広治の るとすっかり癒った。感激のあまり 口上が言えなかった。ところが、「う は、痰と咳の持病で舞台に立っても の頃、歌舞伎俳優二代目市川團十郎 来が書かれている。江戸時代の享保 がある。外郎家が制作した小冊子 ることは人助けであり世のためだ 伝になってしまうと堅く断ったが、 しをしたいと申し出た。外郎家は宣 の人柄にうたれた團十郎は、舞台で た。そして、團十郎も意仙も俳諧を て帰ろうとしたところ、座敷に通さ 上した。團十郎は玄関で挨拶だけし いろう」のことを聞き、服用してみ 「ういろう」の効能を述べてご恩返 「ういろう」に「外郎売」成立の由 歌舞伎の市川家十八番に「外郎売

売に化けて、遊郭で遊女を侍らせて第の曽我五郎時致(ときむね)は外郎商である。場所は大磯の遊郭である。な評判となった。題名に「曾我」とな評判となった。題名に「曾我」と数曾我」の外題で上演されて、大変勢曾我」の外題で上演されて、大変勢自我」の外題で上演されて、大変勢自我」の外題で上演されて、大変

で立てる。 遊女たちは、世上で評にうとする。 遊女たちは、世上で評別を席へ招き入れる。 花道から團十郎を席へ招き入れる。 花道から團十郎を席へ招き入れる。 花道から團十上が聞きたくて、外郎売に扮した五上が聞きたくて、外郎売の早口の口上で記があでやかな外郎売の早口の口上で記入なく述

台詞がある。 その長い口上の後半部に、面白

「煮ても焼いても喰はれぬものに、石熊、石持、虎熊、虎ぎ」。に、石熊、石持、虎熊、虎ぎ」。に、石熊、石門では、茨木中にも東寺の羅生門には、茨木中にも東寺の羅生門には、茨木助きんかん、推茸、さだめてごためる。かの頼光の膝元去らず。しやる。かの頼光の膝元去らず。しかる。かの頼光の膝元去らずんな、・・・」

り落として難を逃れた。襲った場所 戻しに来るから七日間家を閉じて を上階に打ち捨てるような不気味 綱を襲うが、綱は茨木童子の腕を切 美しい女に化けて一条戻橋で渡辺 ら逃げ出した。その後、茨木童子は 子は酒呑童子の第一の家来で、酒呑 を読み込んでいると分かる。茨木童 光に見せると、茨木童子が必ず取り な場所になったという。その腕を頼 代中頃の羅生門は荒れ果てて、死者 は羅生門とする物語もある。平安時 童子が討たれたのを見て大江山か 口上のこの台詞は、酒呑童子の物語 「頼光」の名前があるから、外郎売 横線部を見ると、「茨木童子」と

> もの」となる。 ある。更に、石熊、石持は石であり、 金も石も「煮ても焼いても喰はれぬ 金熊と、これらの名はどれも金属で 子の双子だそうだ。 五徳、鐵きう、 子四天王から外れているが金熊童 金熊は第四席である。石熊だけは童 る。虎熊は酒伝童子四天王の第二席、 みな酒呑童子の手下の鬼たちであ 熊童子」、「虎熊」は「虎熊童子」と、 木童子が取り戻した「腕」にかけて 話から、「うで栗」の「うで」は、茨 師・安倍清明の屋敷も付近にあった。 橋は冥土の入口とも云われ、陰陽 取り戻したという話である。一条戻 まんまと綱の屋敷へ入り込み、腕を かし、茨木童子は綱の叔母に化けて 物忌みをしろ、と綱へ指示した。し いて出てくる「かな熊どうじ」とは、 いると分かる。五徳、鐵きう、に続 「一条戻橋の鬼」として有名なこの 「金熊童子」であり、「石熊」は「石

「頼光」は、言うまでもなく「源報光」である。「鮒きんかん、椎茸、
をだめて」は、これも頼光四天王の
ると分かる。「鮒」は「つな」で渡辺
ると分かる。「鮒」は「つな」で渡辺
調、「きんかん」は「きんとき」で坂
調・「きんかん」は「さだみつ」
で碓井貞光、と見事な語呂合わせで
ある。そうだとすれば、「頼光の膝
ある。そうだとすれば、「頼光の膝
たらず」とは、頼光四天王が「頼
光の元を去らずに酒呑童子退治に
参加した」の意味であると容易に推

あるから、血しぶきも極めて生々し さい残酷なシーンも多い。極彩色で 物に描かれている場面は、血なまぐ

たのだろうか。

深窓の姫君がなぜ嫁入りに持参し い。このような気味の悪い絵巻を、

朝廷に従わない反逆者集団を表わ

れた。恐らく、これらの鬼の実像は、

都を出立する。源頼光一行が深山の

のためにと勇躍として鬼退治へと は、帝の命を受けて、世の中の安寧 しているのだろう。鬼退治する勇者

と鬼の館に辿り着く経路は象徴的 山塊をよじ登り、狭い洞窟を抜ける

戸庶民には常識であったに違いな てしまったそれらの名は、当時の江 代人にはほとんど記憶の外となっ 王の名前を連想したことだろう。現 酒呑童子の手下の名前や頼光四天 き、すぐに酒呑童子の物語と分かり の庶民が外郎売の口上を聞いたと たのではないだろうか。当時の江戸 を、外郎売の口上の中に滑り込ませ いた御伽噺「酒呑童子」の登場人物 市川團十郎は、世間で評判となって から、見事に年代が一致している。 が初演されたのが享保三年である 紀初めの享保年間であり、「外郎売」 伽草子」が世に広まったのは十八世 てくるのは、偶然であろうか。 売」に酒呑童子物語の登場人物が出 江戸中期初めに成立した 外郎

深く影響したのではないだろうか。 童子は、絵巻物や草子に数多く描か 人々の心の奥の襞深くまで沁み込 恐ろしい存在の共通概念として 語を通じて、日本における「鬼」は、 たからだと思われる。酒呑童子の物 を身近に感じていた時代でもあっ ことによって、日本人の精神形成に んでいたのだろう。鬼としての酒呑 、御伽噺として広く語り継がれる それは同時に、人々が鬼の存在

督姫と鬼の正体

膨大に蒐集されていた。北条家滅亡 北条家には、貴重な書画や書物が

> 札で池田家から流出し、現在は六本 取池田家へ伝わった。大正年間の入 とき「酒伝童子絵巻」を持参した。 の娘・督姫は、池田輝政へ再嫁した 主・北条氏直の正室だった徳川家康 の所持となった。北条家第五代当 時に、家宝のほとんどが勝者の豊臣 木の東京ミッドタウンにあるサン 絵巻は、姫路池田家の所有の後、鳥 して、「酒伝童子絵巻」は徳川家康 奨として家臣たちへ与えられた。そ 秀吉によって持ち去られ、武功の報 トリー美術館の所蔵となっている。 それにしても、酒伝童子の絵巻

ある。督姫は、この家宝の存在を知 品とした理由とは、何であったのだ わしくないこのような絵巻を、持参 どちらにしても、嫁入り道具にふさ 父に所望して持参したのだろうか。 えだったのか、或いは、督姫自身が って、小田原城内で絵巻を拝見して 絵巻を持参したのは、父・家康の考 いた可能性は高い。督姫が酒伝童子 のために描かせたのかは不明で 二代・氏綱が制作を依頼した時

が登場する物語が多い。そして、そ 寸法師の鬼退治など、御伽噺には鬼 桃太郎の鬼が島の鬼征伐や、



「酒伝童子絵巻」

悪事を働いて、都の人々を恐怖に陥 を荒らし貴族の娘をさらっていく の鬼たちは離島や山奥に棲家を構 え、独立王国を形成していた。とき 妖術を使って都に現れ、 家々

(サントリー美術館所蔵)

ない王化の外、即ち「化外(けがい) が「桃花源記」に描いた、 な道具立てなのである。 ろしい鬼の世界に至るために必要 配する地獄である。洞窟や川は、恐 の向こうは死の世界であり、鬼が支 様である。川は「三途の川」で、そ の道筋を教えてもらう筋書きも同 で洗濯をする老婆と出会い、鬼館へ ると冥界にも至る物語もある。川端 の地」なのである。更に、洞窟に入 に至る。そこは、王権の権威が及ば 現世と縁を切り、俗界と異なる異界 話と同じなのだ。洞窟を通ることで の洞窟をくぐると桃源郷に至った まるで、 中国六朝時代の陶淵 桃林の奥

じていた。そして、疱瘡は朝鮮半島 疫神のなせる厄であると人々は信 ような猛威を振るう疱瘡の流行を、 ての人々が被害者となりうる。その 至るのだから、貴賤にかかわらず全 出ない人々でも誰彼かまわず死に 至る恐ろしい病気であった。戦場に 特に、疱瘡(天然痘)は、すぐに死に 戦争ではなく疫病の流行であった。 当時の最も恐ろしい出来事とは

うと、せめてもの救いを求めた精神 どうにもならない恐怖に打ち克と 頼れない当時の人々が、人の力では れた背景には、もはや王権の権威に う。鬼退治の絵巻物が盛んに制作さ 威が物語の中で夢想されたのだろ 室町時代以降の時代であったから 権威は大いに高まるのである。逆に のが目的である。勇者が鬼の首を持 権威が及び、その強さを人々へ示す することによってめでたしめでた す鬼を、帝の命を受けた勇者が退治 こそ、すでに失われていた王権の権 いえば、天皇家の権威が地に落ちた って都の大路を凱旋すれば、王権の しとなるのは、化外の地にも王権の |界があったからかもしれない。 そのような人々に厄害をもたら

する物語は、か弱い姫君から厄害をったのではないか。勇者が鬼を退治遭わないための厄除けが目的であ絵巻を嫁入りに持参したのは、厄に会きを嫁入りに持参したのは、厄に

されたのではないだろうか。った方が、より強力な霊験があるとるときに血飛沫が鮮やかに飛び散るときに血飛沫が鮮やかに飛び散るときに血飛沫が鮮やかに飛び散いたと考えられるのである。そ取り除き、その身を守護するお守り

だろうが、けなげにも小田原城にそ 栄を誇った北条家の滅亡に驚いた 間近で疱瘡の恐怖を味わった督姫 を奪っていった疱瘡の魔力に驚愕 なかったにもかかわらず、あっけな その夫は小田原の戦で命を落とさ の再会を神仏の助けと、心はやって のまま留まっていた。そして、夫と 三十歳の若さであった。督姫は、繁 亡くなってしまったのである。享年 ろが、再会してたった二ヶ月後の十 阪の氏直のもとに身を寄せた。とこ 城に残っていた督姫は、八月末に大 天正十九年(一五九一)五月には許さ の小田原攻めで、督姫の夫・五代北 ないところが、鬼の話である。秀吉 女をもうけて、幸せに暮らすことが 巻を持参したのではないか。幸いに 三年後、督姫は二十九歳で再婚した。 し、心底恐怖したことだろう。その は、再会の喜びもつかの間、夫の命 く疱瘡で命を失ってしまった。督姫 れて大阪へ移った。落城後も小田原 条氏直は降伏し、高野山へ流された。 して、督姫は池田輝政の間に四男一 大阪へ行ったことだろう。ところが 一月初め、突然、夫・氏直は疱瘡で しかし、この話はそこで終わら 一疱瘡の厄除けとして酒伝童子絵

きた。

まったのである。享年四十九歳であ 月二八日に家康が江戸へ立った後、 まった翌年正月に、徳川家康は二条 たようである。 猛威を振るう疱瘡鬼の前では、督姫 た。さすがの「酒伝童子絵巻」も、 った。誠に恐ろしい鬼の仕業であっ いう間の二月四日に亡くなってし 督姫は二条城で疱瘡を患い、あっと 喜んだことであろう。ところが、正 を訪ねた。久しぶりの父との再会を 城へ入った。そこへ督姫は父・家康 のだ。大阪冬の陣が講和によって収 然に、恐怖の鬼が再び督姫を襲った 日が経った慶長二十年(一六一五) への厄除けの効き目は及ばなかっ ところが、再嫁から二十年の 突月

おわりに

古来、人々は常に鬼の存在を感じながら生きていた。それは、人知の及ばない疫病、地震・雷・台風など自然の脅威であった。幕末から種ど自然の脅威であった。幕末から種でいった。天然痘は日本では一九五石に根絶宣言を出した。督姫が恐れた疱瘡と云う鬼は、地球上から消滅た疱瘡と云う鬼は、地球上から消滅た疱瘡と云う鬼は、地球上から消滅た疱瘡と云う鬼は、地球上から消滅た疱瘡と云う鬼は、地球上から消滅

最強の鬼が消滅して、人々から自然た存在である。そして、疱瘡という力者もいない。鬼は、もはや失われ人々も、鬼を作り出す必要のある権現代では、鬼の存在を信じる

の安らぎであった。 き合っていたからこそ得られる心 る。それは、畏敬をもって自然と向 の平安、即ち「安心」を得たのであ うすることで心の不安を減らし、心 りの力によって鬼を封じ込めた。そ ではない。庶民は日々の祈りやお守 代科学のように相手を滅ぼす対策 避けてきた。厄払いや厄除けは、近 人々は、祈祷やお守りによって厄を ろ地球規模で巨大化している。昔の 地震や台風など自然の脅威は、むし 恐怖は世界規模化している。そして デミック (世界的大流行) など、鬼の ARSや鳥インフルエンザのパン ラの患者はまだ発生しているし、S は根絶できていない。ペストやコレ 近代医療や最新科学によっても鬼 への畏怖も喪失していった。しかし

近代科学で武装する現代人は、近代科学で武装する現代人は、一方で漠然とした不安を心に抱えている。鬼を失うことによって、昔ている。鬼を失うことによって、昔でいる。鬼を失うことによって、世の人々が得ていた心の平安も同時の人々が得ていだろうか。京文化を小いのではないだろうか。京文化を小いのではないだろうか。京文化を小いのではないだろうか。京文化を小いのではないだろうか。京文化を小のが語は、現代人へも、そのように関へ伝えた「酒伝童子絵巻」の鬼間いかけているように思えるのである。

徳 ع 論 語 七

寺子屋石塾主宰

岩越

豊雄

教育の建て直しは縦て直しから 為政篇十一にこうあります。

子曰く、故きを温めて新しきを

知れば、 できるのだ。と解します。 新たな智恵を知ることができる を学び、其の中から、今に生きる 人であれば、人の師となることが 孔子先生がおっしゃった。古典 以って師と為す可し。

の師ともなれるという事です。 知恵を学ぶことが出来る者が、人 典から今の時代に生かす新たな 生のことです。そうした本物の古 を知るという意味にも取れます。 の、いわば横の関係に生かす知恵 読み取る、つまり、今の人と人と こから今の時代に生かす意味を は経糸(たていと)のことです。そ 本物の経書という事です。「経」と ふるいにかけられて残ってきた 書物の事です。それは永い時代の 典とは昔から読み継がれている 「師」とは人々に学問を教える先 「故」とは古典のことです。古

> 中を潤沢することなく、世の中 に筆して書物となす時は、世の にならず、実に無益の物なり。 の水として用いざれば世の潤沢 の用に立てんには、胸中の温気 をなさぬは矢張り同様なり。さ 如し。世の中を潤沢せず水の用 氷のとけて又氷柱の下りたるが 氷柱(つらら)に下りたるが如く、 書物の注釈というものは、氷に 水の用はなさぬなり。しかして なしといえども少しも潤沢せず 氷りたるが如し。もと水に相違 の用にたつ事なし。譬えば水の の教えそのものです。 て此の氷となりたる経書を世上 るものなり。さる尊き大道も書 して、こう述べています。 今に役立てる。まさに「温故知新 し。よく世の中を潤沢し滞らざ (うんき)を以てよくとかして、元 経書を己の心の熱で溶かして、 曰く、大道は譬えば水の如 続いてこう述べていま

経糸のことなり。されば経糸ば経文といい経書という其の経はわが教えは実行を尊ぶ。それ

が加しと論じて実行に及ぶ」と題

二宮尊徳夜話六二に「大道は水

ものなり。横に実行を織らず、只 実行を織り込み初めて用をなす 弁を待たずして明らかなり。 経糸ののみにては益なきこと、 かりでは用をなさず。横に日々

を、今に生かし実行することを常 己の心の熱で溶かして学び、それ に説いています。 尊徳翁は、経糸である経書を、

が学而篇二にあります。 つながるという、このような章句 身近な実践が、世の安定平和に

有子曰く、其の人と為りや孝弟

にして、上を犯すことを好む者

は鮮なし。上を犯すことを好ま

ずして、乱を作すことを好む者

は未だ之有らざるなり。君子は

本を務む。本立ちて道生ず。孝弟

は其れ仁を為すの本か。

き人は本をしっかり務める。本が すことを好む者はまずいない。良 好まない者であれば、世の中を乱 ない。目上の人にたてつくことを しっかりしてこそ、人として生き てつくことを好むような者は少 れば、世の中に出て目上の人にた で、目上の人に素直に従う人であ 有子が言われた。人柄が親孝行

本である。 にまごころを尽す「仁」の行為の 目上の人に素直に従うことが、人 る道がはっきりする。 「孝」の字源は、子+老 親孝行で、

味を表します。 る子ということで、親につくす意 く)老つまり、お年寄りをささえ

(ヒを省

ります。「悌」とも書きます。 うに、年少者が年長者の話をよく り、順序・次第の意味を表します。 聴き、素直に従うという意味があ 意味をも表し、弟が兄に対するよ 出生の順序の低い方、おとうとの し皮をまきつけた様に象(かたど) 「弟」の字源は戈 (ほこ) になめ

や平和を乱すことです。 り、まごころをつくす」ことです。 道徳の基本である、「人を思いや と人との人間関係における倫理・ み合わせた漢字です。つまり、人 「仁」とは「人」と「二」を組 「乱を作す」とは、社会の秩序

会の秩序は乱れ、平和は崩れてし われ、家庭はもちろんのこと、社 を否定すれば、反抗心ばかりが養 られています。しかし、「孝」や「弟 なうものであるかのように教え 古い道徳であり、個の主体性を損 りました。「孝悌」などといえば、 というようなことを教えなくな 兄や年長者を尊敬し素直に従う し孝行をすることや、「弟」つまり、 す。しかし、「孝」つまり親を敬愛 いま、誰もが世界平和を唱えま

まうことは確かなことです。

いうことにもなります。 横のつながり「絆」をも強めると ることが「仁」つまり人と人との すの本」とは孝弟という縦を立て つくす」ことです。「孝弟は仁を為 の横の関係において「まごころを す。一貫しているのは、人と人と ぞれの弟子に応じて説いていま にし、自分を後にすること」「己に 孔子は「人を愛すること」「人を先 ば縦軸の関係です。「仁」について 克ちて礼に復ること」など、それ 「孝」や年長者への「弟」はいわ ところでよく考えると、親への

とは、日本弱体化の一因にもなり を述べています。縦を横にするこ 横軸を強くするようにという事 著書で、日本は縦軸が強すぎる、 リーは「横軸のない日本」という 日本教育使節団員で高松の宮の を理想としました。現に占領軍の 縦軸を断ち、全てを横にすること 主主義、個人主義という名の本に 教育係を勤めた、オーティス・ケ ところで、戦後教育の基本は民

糸がしっかり張られて、横糸が織 本語から推察できます。横柄、 いました。その事は、横のつく日 にすること碌でもないと考えて しま(邪)、横恋慕です。織物も縦 着、横暴です。それに横車、よこ 昔から日本人は縦を絶って、

> とかもった。しかし今は其れが、 ことにある、とおっしゃっていま 幼の序とか、親や先生を敬すると 問題を抱へている、その本は、長 ならないと強く思います。 横様(よこざま)に崩壊してしまっ 持った親や先生がいたからなん 前の教育を受け、そうした気風を した。戦後間もない頃は、まだ戦 いふ縦の関係が崩れてしまった 学級崩壊の現象をはじめ、深刻な 育は、授業が成り立たないような されていた方から、今、日本の教 育の「建て直し」には、正に「縦 があるように思います。日本の教 た。そこに日本の教育問題の根源 に直す」ことからは始めなければ 前、県の教育事務所の所長を

相手を立てる基本は礼にあり

ます。その本は相手のことを思う を進める方法のことで、形が伴い 礼です。礼とは人として行いを慎 にこうあります。 み、相手を敬う礼儀や儀礼・儀式 「仁」ということです。八佾篇三 仁の実践の一つが相手を敬う

子曰く、人にして仁あらずんば、

礼を如何にせん。人にして仁あ

らずんば、楽を如何にせん。

無ければ、楽の音も心に響かない るだろう。相手を思うまごころが まごころが無ければ、礼が何にな 先生がおっしゃった。人を思う

ます。しかし、相手を尊び敬う「仁 のになります。 の心が伴わなければ形だけのも た身の処し方としての形があり 「礼」は長い伝統文化に培われ

み哀しむ心です。

「奢る」や「易まる」は、いず

「戚(いた)む」とは、悼(いた)

ことがその基本です。それが音楽 の楽しさです は相手とこころを響き合わせる

られたいという方に心が傾いて

人に咎められたくない、人に認め 式を行う当人が、人に示したい、 れも儀式の本来の意義より、その

り立たないということです。 ろがなければ「礼」も「楽」も成

佾篇四でこう述べています。

V 、なるかな問いや。礼は其の奢

の易まらんよりは、 、寧ろ戚め。 らんよりは、寧ろ倹なれ。喪は其

も、かなしみ悼む、まごころがあ し行き届かないところがあって つましくあれ。葬(とむらい)は少 れた。とてもいい問いだ。礼式は んですかと問うた。先生が答えら 人に目立つようにするよりは、つ 林放が「礼」の要(かなめ)はな

とは、手順などが行き届いて完璧 に行なわれることをいいます。 素であること、「易(おさ)まる」 する事、「倹」とはつつましく、質 奢る」とは分を超えて派手に

「楽」とは音楽のことです。それ

また、儀礼・儀式については 「仁」つまり相手を思うまごこ 八

> 悼む心があったほうがずっとよ ころがあり、整っているよりも、

です。それより、質素でも、まご ら外れている所があるという事 しまっていて、式の本来の意義か

いという事です。

林放、礼の本を問う。子曰く、大りんぽう、れいしもとしとしていわし、おお

の質問にこう答えています。 たが、顔淵篇一に、「仁」について 実行が伴います。 前にも触れまし また「礼」は「履」でもあり、

顔淵仁を問う。子曰く、己に克がんえんじん と しいわ おのれ か

ちて礼に復るを仁となす。一日

己に克ちて礼に復らば、天下仁

人に由らんや。顔淵曰く、 に帰す。仁を為すは己に由る。 、 其 の ^もく

を請い問う。子曰く、礼に非ざれ

聴くこと勿かれ。礼に非ざれ言い、視ること勿かれ。礼に非ざれば、視ること勿かれ。礼に非ざれば、視ることのかれ。礼に非ざれば、視ることのかれ。礼に非ざれば、視ることのかれ。礼に非ざれば、れることのかれる。

うこと勿かれ。礼に非ざれ動く

りと雖も請う斯の語を事とせん。こと勿かれ。顔淵曰く、回不敏なことのかれ。

に従って生きていきます。 かとはいえわたしは、そのお言葉 わないことだ。顔淵はいった。愚 視ない、聴かない、言わない、行 ていない、人の道に外れたことは 先生はおっしゃった。礼にかなっ 要(かなめ)をお聞かせください。 顔淵がさらにおたずねした。その に立ち返ることが仁である。ひと 己のほしいままな心を抑えて、礼 ずねした。先生がおっしゃった。 て、礼に立ち戻れば、世の人たち たび、己のほしいままな心を抑え 仁は自ら進んで行うものであり、 も、それを見習って仁に立ち帰る。 人に言われて行うものではない。 **温が仁の行いについておた**

的にはその方が分かりやすいか自分を後にすることです。」実践かりやすくいうと「人を先にし、かまないます。分をえることだといっています。分の身を抑えひきしめ、人に利便をの身を抑えひきしめ、己のほしいままな心を抑えるり、己のほしいままな心を抑えるり、己のほしいままな心を抑えるり、己のほしいます。簡野道明氏は、己り、己のほしいます。

「复礼」りと思います。

「復礼」の礼とは、君に忠、親「復礼」の礼とは、君に忠、親をいうことです。その基本は「人を先にし、とです。その基本は「人を先にし、とです。その基本は「人を先にし、とです。その基本は「人を先にし、一旦ということです。その基本は「人を先にし、人としての規範としています。その基本は「人を先にし、一人ひとりが実践し、そのようとです。確かにそうかもしれません。

人はまた、一面、社会の風潮や、周りに染まりやすいものです。です。先ず「非礼」、つまり、人のです。先ず「非礼」、つまり、人のです。先ず「非礼」、つまり、人のです。先ず「非礼」、つまり、でのの人にいい」では心を使って見ることでいい「聴かない」ということだというの人はまた、一面、社会の風潮や、人はまた、一面、社会の風潮や、

ないということです。 ところで、人の道に外れた非礼ところで、人の道に外れた非礼ところで、人の道に外れた非祖をい」「聴かない」とは、ただ漠然と受身的に「見る」「聞く」のではなく、己の心を使って、批のではなく、己の心を使って、批のではなく、己の心を使って、批のではなく、己の心を使って、批いたが、人の道に外れた非礼ところで、人の道に外れた非礼ところで、人の道に外れた非礼ところで、人の道に外れた非礼ところで、人の道に外れた非礼ところで、人の道に外れた非礼ということです。

「言わない」「行わない」ということでしょうか。 しかし、実際となると難しいば、誰でもできるようにも思えまば、誰でもできるようにも思えまとは己の意志でできることを決意

儒学を治世に取り入れた、徳川の章句からきています。行わざるの章句からきています。行わざるのはこざる・聞かざる・言わざるのはこがある。

はこう述べています。 この章句にふれて、二宮尊徳翁

つがなければしのぐことができぬい。身体があれば、食と衣の二親を捨てても妻子を捨てても、これを捨てても、これを捨てても、ままう。たとえ出家遁世して、君親をおり、妻子もあるのをどうで親を指して、妻子もあるのをどうで、私教家は、この世は仮の宿で、仏教家は、この世は仮の宿で、

うな、動くなと教えている。自分 えたちのうえでは、それでは間に となかれ」と教えるが、通常おま なかれ、言うことなかれ、動くこ ざれば視ることなれ、聴くこと これが実情だ。儒道では、「礼に非 翁夜話二二七) にあろうが、私はとらない。(二宮 のためにも、人のためにもならな でなければ、視るな、聴くな、言 ためになるか、人のためになるか 合わない。それゆえ私は、自分の は寒くこそあれ」と言っている。 はなきものと思えども雪の降る日 から、西行の歌に「捨て果てて身 ることができないよのなかだ。だ ない。船賃がなければ海も川も渡 いことは、経書にあろうが、経文

やすく説きます。

短 歌

田口

どんと焼き(一月)

右小田原左飯泉鈴の音の調に染むる巡礼の道

天保の飢饉安政の地震偲びつつ飽食の世の祭に紛る道了尊大明神は天保の南無阿弥陀仏は安政の碑に

一升瓶下げるおみなの注ぎくれし茶碗に満つる「箱根山」吞むどんと火に白塗緋衣の達磨焼け墨絵のおもわ消尽きいかる

人としての道に外れた非礼

多年の努力の賜てある。今、其の目次を一覧す

く先人未踏の史蹟を考定せられた等は全く氏か

柄史蹟とても称すへきものて、小総の駅址の如 等を以て云はしむれは、史料を通して見たる足

片 岡 日記 昭和編 (十五) 菛

片 岡 永左衛

昭和三年 十一月

本日発刊之史蹟名勝天然紀念物第三集第十一号 四日 途中より

見するに菊判総クロース綴の僅か二百頁に満た されたことかあつた。今、本書の恵送を受て一 企てられたことは、曩(さき)に直接氏から聞か 類を多く家蔵せられるのみならす史癖ある氏は 片岡氏ハ小田原の旧家て此地に関する古文書之 捜に努め其蒐集したる文書伝説に困(因)り、先 を散逸した事を甚た遺憾とし、壮年の頃より採 天災地妖の爲め古古(文)書は勿論近世の記録類 我足柄小田原は、古き歴史を有する地方なるも、 ひとする処(で)ある。名は足柄史料と云も、吾 料を以て充たされて居ることは、吾等の最も喜 ない小冊子てあるか全巻悉く研究、参考の好資 大正大震災の恐る可き教訓に依り本書の編纂を 少壮の頃から関係史料の蒐集に努められた。偶、 せりとの自序に依り刊行の動機は明カてある。 み、将来史家の資料として更に足柄史料を編纂 を編纂したるも、大正十二年九月の関東大震災 ニは相中雑誌を増補し、次ては明治小田原町誌 したれは、余夫妻の金婚記念として刊行を企図 に諸家秘蔵の史料も多くは烏有に帰したるに鑑 片岡永左衛門著

> 究踏査の意も亦盛んてある。小田原を中心の史 他か載せられて居る。金婚式を迎えられたとは 室翠雲、大槻如電、子爵清浦奎吾諸氏の序文其 項ニ別れ、古い時代から最近に至るまての事項 益せられたことを切望して已まない。 二、第三の足柄史料を公にして、以て斯界を裨 ふから、願くは更に蒐集、研究、踏査の上、第 料は決して之を以て足れりとするものてなから 云へ、著者は未た壮者を凌く健康の所有者て研 を収められて居る。猶、巻頭には徳富蘇峰、 酒匂の流域と箱根の道路、報徳二宮神社の十六 小田原宿の伝馬継立、大名と本陣、明治以後の 城址、石垣山の城蹟考、明治戊辰の箱根の戦役、 長国の庁址考、小総の駅址考、北条氏の小田原 竹田宮北白川宮両大妃殿下と小田原の教育、師 行幸の浜、昭憲皇太后陛下行啓の小田原女学校、 小田原城、小田原の火災と消防、箱根の関所、 ハ、明治天皇陛下の御東行と小田原宿、 小

五日

六日 に帰る。今日は京都に行幸なるも群集を恐れて 午后より大磯岸本様淘席。太田様に寄り六時頃 摓 (ママ) 拝す。 晴

午后より熱海野田様御淘席に至る。遂に雨。

七日

八日

十時、熱海より帰宅。 **菊は芽をつみ枝も切らされは、いねるもあれ** まわ感服の極みなるに引替へ、我か庭なる山 きたるも裃に威儀をたゝし扇をかまへたるさ となるわいわすもかな、手入もいかにもと、 清香会なる菊の展覧にゆき見れは、 花の美こ

> 見る我も自からゆたけき心地したれは、 とも、とらわれされは、自由自在の生育にて、 は起るあり、手も添へされはかたむく花あれ

おのも~~こころ心に咲出て かをり床しき庭の山菊

九日

雨

午后より晴れもよふ。

日光を洩し諸喜色。 昨夜より度々空を眺めて気遣し天気も雲間より

をなす。 架したる妙な名のまなひ橋を高齢者ニ随意渡初 先日来、臨席の案内により役場に至り、 高齢者賜杯伝達式ニ参列。了て今回新に城堀に (在) 職したる教員を表章 (彰) し、十二時より

す。了て冷酒の祝杯を挙く。 午后二時より学校跡の式場に打集ひ万歳を三唱

行列に市中賑ふ。 に紅白の幔幕を張も有り。六時より町民の提灯 市中の総は思ひく〜に意匠したる奉祝の軒提灯 中学校、高女、小学校の生徒ハ旗行列をなす。

后三時頃、龍夫東京より来る。

にと祈るこれの民草の短冊を挟み、 自宅には門前に紅葉の枝、 日の丸にて飾りたる提灯を提く。 天皇のつかせまつらく(ママ)高御座永遠 黄菊の作花の中に奉 下に鳳凰と

十一日

中垣秀実先師御贈位を新聞にて見る。

の君の建し功をもあらわれて 睫毛もひかる嬉し涙に

師

会場に行く。 十時より、 中学校体育会より招待により小峯の 龍夫、三時頃より帰京。

午后より尾崎ニ行。 十二日

入江源二郎ニ送金

十三日

り十時半帰る。 午后九時四十分より大嘗祭放送を聞き、 屋台を引出し、人出多し。 宮の前、七区停車場前等、六、七町ハ、午后より に降り出したる雨ハ十時頃より晴、千度小路、 大嘗祭御当日ニ付、天気昨夜より気遣しに夜中 尾崎よ

雨

遠察するに、 大嘗祭御終りの頃より降雨。昨日より之天候を 御祭典中は降雨なく御目出度事な

十六日

とも出来、市中至処大賑 昨日より今日ハ、俄二家(屋) 台 其外に獅子な

十七日

舞の絵端書にて、婦人静子さんと両名にて御即 徳富蘇峰先生の御大典参列の出先より、 位之賀状来る。 礼状の末に左の歌を認めて早速 五節の

たまわりし五節の舞の絵端書に よろこひみてり草の庵りも

加藤君を訪問。五時帰宅。 瀬戸秀兄君来訪。中垣先生御贈位祝賀の件にて

> 十八日 雨

十九日 雨

廿日

晴

外郎氏ニ行く、

不在。

午后より吉田島薬草屋に

三十日

晴

五時より皆伝会ニ出席。

美術館ニ唐、元、

明名画展覧を観覧。

親一方ニ止宿。

外郎、飯田氏と吉川家ニ至る。午后上野東京府

一十九日

行く。

採収ニ酒匂ニ鈴木老人を訪問せしに不在。徒歩、 氏ニ寄りしに不在にて帰宅。 国府津宝金剛院にて山上墓地の五輪を見、 外郎氏ニ面会。小原氏ニ悔ニ行。 午后より史料

二十二日 晴

石黒氏二往訪。 六時より国府津淘席。

二十三日 晴

町役場より依嘱之三省堂百科辞典(ママ)の原稿 を発送す。

御歌会初二詠進、 二十四日 晴

0

ほる日に田面のつゆのいろ見えて あしたしつけきさとのなかみち

二十五日

晴

二十七日 晴 若江先生御来座淘席。

二十六日

晴

二十八日 晴

草山氏ニ至り書籍借用。

十二月

四時半帰宅。

帰途、二宮ニ下車、史料採収の為国府津迄徒歩、

午前、 徳富先生より寿詩を送らる。 酒匂役場ニ至り史料探査。

不憂還不懼孤棹入烟波 人称古稀歳古稀今日多 為寿片岡詩宗古稀 蘇峰迂人

二日

中、小峯氏来訪、又、町長就職を強請。 石黒、中田、今井三人を呼ふ。食事を了り閑談 午后より自園の自然生(薯)にてとろゝ汁に出来、 又談笑、有耶無耶にて小峯も帰る。 同にて

三日

生不在、静子夫人病中にて面会せす。親一方ニ 正午出発。 曇 九時横浜高田に止宿す。 大森山王ニ徳富ニそはを持参す。先

四 日 晴

軍艦みそなはす日をしこ雲の あとなく消えて朝日か、やく

時高田方に帰る。又、夜景を遊覧し全家ニ止宿。 本日は大風にて波涛高かりしも無事拝観し、 真、木杯、式場図等寄贈せらる。 特別観艦式傍観ニ軍艦韓埼ニ乗船す。紀念に写 四

旧道の千鳥橋を足下に新道を行けは新千鳥橋も

2019年 (平成31年) 1月

上京、 五日

晴風

東京市ニ臨幸の予習を拝観し五時帰宅。

午后より大磯ニ行く。 帰途、 石黒ニ立寄、 五

新道の右方となれり。戊辰の箱根戦争には伊場 共々戦時の人情左も有るへし。 川山に潜伏し夜に入り漸々帰り来れりと。古今 足を命せられしも違背すれは一村も放火せられ の境の右方に有りしか、和宮御下向の時、三十 転し坂は瘤水に続きたる。坂割石は須雲川と畑 の左となる。瘤に奇功有りと云弘法大師のいほ は勿論堤防も大破し仮橋を架す。川は是より路 りに落ると見て行けは、此道景色よし。須雲橋 同時代より有りしものか。右に忍の瀧のく字な 雲川に加藤惣太郎氏を訪ふ。幸ニ在宿にて同道 真師と三人、自動車にて史跡撮影ニ出発。三枚 午前九時、停車場に落合、瀬戸、小川 心配せしに両人の案内人ハ途中にて逃去り、早 したるに、案内人者は翌日に至るも帰り来らす。 て須雲川村に退却し、武器の運搬や道案内の人 六人持ちの大長持の通行に差支へて割取られて 水は旧道の右にて、新道の左となる。旧道の女 は震災に流失し川原となれりと云は、此部落も の左なるも、元禄年間迄は右方に在りしも其地 仝寺には文明年間の戒名過去帳に在り。今は路 す。鎖雲寺に躄勝五郎の墓有りと聞き立寄る。 ん様なれは、命せらるゝまゝ運搬し案内人も出 (庭)八郎は片腕を切られ戸板に乗り八十人計に 角を残すのみなりしか、今ハ女転坂も割石も 台茶屋を過き猿沢橋にて下車、徒歩す。須 加藤君と別れ、 両氏及写

> り新道を右にして左に旧道に入れは、荒廃した 化石に非されは大古時のと思るれは、此千二百 事場より持来りたる貝の化石を見れは、石灰の 黒燿石を発見し拾ひたるか、前住民も箱根又は るも一里塚あり。是より西海子橿木坂を登る。 尺以上の高地も海中なりし事ならむか。村端よ に至り弁当を開く。不計小供の持居たる砂防工 早川辺にて拾ひ、矢の根とせしかと思る。畑宿 水に破壊し橋下の石を飛々渡りしに、大小の

谷川の川瀬の音をともないて こゝしき道を下る山風

にて休み、 中なれは、 道に出て行く。新道も笈平迄にて、以上は測量 て県庁にて金弐万円程にて売却したり。又、新 木は、惜くも明治四十三年の頃県会の決議を経 らさりしも、湯本中宿以西樫木坂迄の松杉の並 樫木坂以上は権現坂迄ハ地質の関係か並木はあ 来年は元箱根に達すへし。 又石敷道の白水坂を登る。 甘酒茶屋

夕されとまた朝しものとけやらて 足ふみしめて登る箱根路

箱根の旧道の大部分は、中央の七尺より九尺計 より自動車にて芦の湯紀の国屋に止宿す。 引受、領主役人の出張して工事を監督したりと。 にて、一ヶ年に拾軒ニ付人足一人を出し、此割 此修繕も容易の事にあらす。其費用は助郷村々 滑る為に其の左右の石なき処を撰みて通行し、 りの巾は丸石、割石を敷詰めたるか、馬は足の 事実なりしを首肯せらる。権現坂を下り元箱根 金銭にて仕出し、路付の村方にて村内の工事を は半額を負担したり。然れとも、其は標準にて 合は一軒の間口を六間とし、間口の三間なる者 (存) する遺蹟を見れは工事も行き届き、其

> りし。 は返て山の温泉の感を深からしめ、 は他の温泉旅館の建築の美麗と競す、 居心ちよか 素朴なる

八日

形石等を見る。当山は年来登覧を希したれは、 午前九時、 全家を出て駒ヶ嶽に登り、 頂上 一の駒

幾とせか思ひかさねし駒ヶ嶽

駒ヶ嶽にて

峯より続く雲のふしの根

問し、 跡を遠望し、山を下り箱根ニ至り、 此高齢にて登山の記念に写真し、二子の噴火の 木を撮影し、箱根神社に至り、 五時帰宅す。 早山茂宮司を訪 関所跡、 並

九日 曇 寒し

十日 一藤木淘席。 晴

十一日 晴

午后、 十二日 一見氏ニ行。 半晴

十三日

十四日

十五日 午后より 国府津淘 雨

晴

之懇請ニ付テナリ。 中田寿一郎ニ交渉方を、 ハ後任町長の件ニテ、町議各派も弥々困却し、 席。帰途、今井より迎来り中田方ニ至る。要件 山田町議来談、町長之件なり。 今井廣之助及拙者依頼 午后より大磯淘

謹

賀

新

小 田 会創立 昭和三十六年一月 創刊 昭和三十六年一月

禁無断転載

振替 小〇〇! :: 年会費 原史談会 原 普通会員三千円 特別賛助会員

紳士服の **アメリカヤ** TEL 22-3306

報 徳 会 計 TEL 23-2171 税理士法人

書店 TEL 49-8167

こ ま ぼ TEL 0120-22-9221

大勹ሣ 薬局 TEL 090-3215-2001

⑤ 小 田 原 ガス

小田原報徳自動車 TEL 22-4155

かまぼこ 籠

TEL 22-0251

かみやま小児科クリニック

COMTEC コムテック株式会社 TEL 22-4214

が み 信 用 金 庫 TEL 22-3121

ル フ ア TEL 35-5611

のれんと味

う 本 店 TEL 22-4951

かっ楼 TEL 22-2078

和菓子 菜 の 花 TEL 22-5528

杉崎茂法律事務所

平 店 井 TEL 22-5370

AWADIM 株式会社能 TEL 22-5185

株式会社 TEL 34-5151

^{建築金物}(株) 星崎仲吉商店 TEL 34-2718

マルク 学生専科 TEL 23-0909

曽 我 の 梅 干塩辛・かまぼこ 美の政 TEL 22-2354

思い出を語っていただいた。また、三綱の作品論を出入りしていた戸田節子さんに、三綱・正子夫妻の綱の義理の姪ごさんであり、小さな頃から三綱邸に

たことを、われわれは知らなさ過ぎる。今号では、三上三綱という画家が長らく小田原の地で活動していは話題にも上らない。しかし、世界的にも著名な井

がったが、その盛り上がりは一過性で、今となって

会員の皆様 本年もよろしくお願 平成三十一年 元旦 い申し上げます 小 田原史談会会長 松島

俊

樹

小田原史談会

穂

何が残せるのだろうか?

一〇年のオリンピックに備えるだけでなく、

検索人

小田原史談会ホームページ URL http://odawara-shidan.hustle.ne.jp/

年だった。ちょうど同じ干支の今年に退位されると

ったのだろう? 皇太子(現在の天皇)の御成婚

これは「エネルギー、パワーを蓄える年」だそうだ。

つ前の同じ干支だった、一九五九年はどんな年だ

いうのは、不思議な巡り合わせである。一九五九年

小田原史談」 原稿募集

おります。お問い合わせは左記へ。 紀行・証言等の原稿をお待ちして

〒二五〇一〇一〇五 南足柄市関本七三〇—六 〇四六五—七三—〇八七九 荒河 純

村上春樹著『騎士団長殺し』が出版 一部にかなり盛り上舞台が入生田の氏の